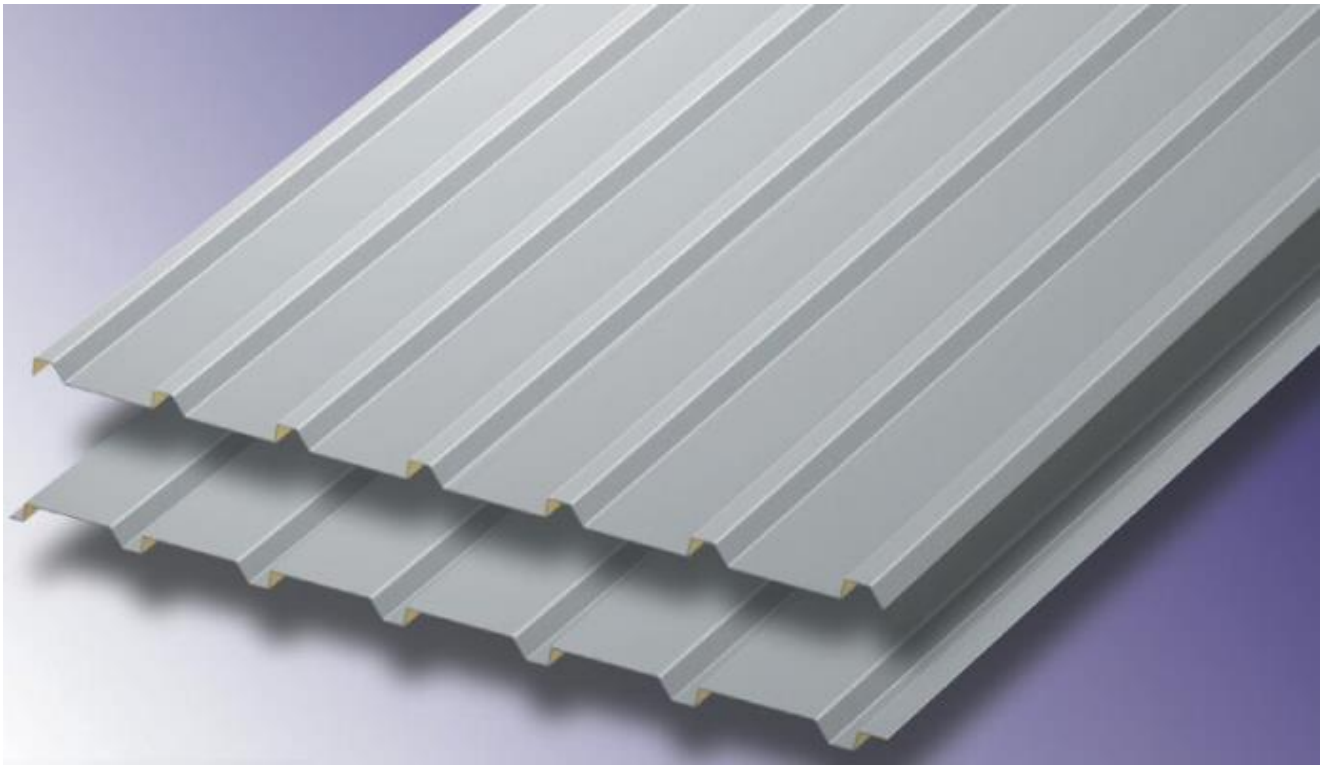
縦・横張り兼用サイディング

角波D-Ⅰ型、D-Ⅱ型

施工の手引き



月星商事株式会社

http://www.tsukiboshi-shoji.co.jp

角波Ｄ－Ⅰ型、Ｄ－Ⅱ型
施工の手引きご使用にあたって

● 施工の手引きには、角波Ｄ－Ⅰ型、Ｄ－Ⅱ型を安全に正しくお使い頂くための重要な情報を記載しています。

● 施工や納まりの方法は、施工の手引き記載以外もありますが、製品品質、施工品質を確保するための方法として、標準的な例を記載しております。

● 実際の施工においては、角波Ｄ－Ⅰ型、Ｄ－Ⅱ型の機能および性能や地域性などを考慮して工法を決定してください。

● 施工の手引き内で示す寸法は標準値であり、現場での実施工において地域性等を考慮する場合、納まり状況等により前後することがあります。

● 施工の手引きを参考いただき、元請け様や工事店様のご判断、責任のもと、施工を行って頂きますようお願い致します。
弊社は免責とさせていただきます。

● 角波Ｄ－Ⅰ型、Ｄ－Ⅱ型の工事にあたり、施工の手引きに記載の基本事項をご理解の上、実際の現場に即した安全で確実な施工を行って頂きますようお願い致します。

（注） この施工の手引きは標準施工例です。
外壁材、役物等の納めについては、各現場の状況に応じて施工してください。

安全上のご注意（必ずお守りください）

⚠ 警告

この表示の欄は「取り扱いを誤ると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

●高所作業を伴いますので、転落による事故防止のため、高所作業の
　正しい服装と保護具を着用し、足場の点検を行ってください。
●２メートル以上の高所作業は、安全ベルト、命綱の携帯が法律で規
　定されています。事故の可能性がありますので、関係法規に従って
　ください。
●金属製外装材ですので、怪我を防止するために、必ず作業手袋を
　着用してください。
●雨や露で外壁材が濡れている場合は、施工しないでください。
　滑り落ちる恐れがあります。
●金属外壁や金属部材は、電線等に触れないように取り扱ってください。
　感電の恐れがあります。
●外壁材は風で吹き飛ばされないように設置してください。また風の吹
　いているときに持ち運ぶ場合、あおられないよう、足元を固めてくだ
　さい。

⚠ 注意

この表示の欄は「取り扱いを誤ると、人が傷害を負う危険または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

●外壁製品の保管は防水シートで覆い、雨水に濡れないようにして
　ください。
●防水のため施工の際は、外壁板の働き幅による正確な割付を行っ
　てください。
●断熱材貼り製品の場合、裏面や切断面に溶接の炎、火花などがあ
　たると引火する恐れがあるので、養生するなど特にご注意ください。
●作業中に出る加工片や切粉は、錆の原因となりますので、確実に
　取り除いてください。
●異種金属との接触は、もらい錆の原因となりますので、避けてく
　ださい。
●現場加工時に、鉄板の切断面に生じたバリは、怪我をする可能性があ
　るので取り除いてください。
●施工したあとの外壁面の塗装に傷が付かないように注意してください。
　もし傷を付けてしまった場合は、必ず補修塗料で補修をしてください。
●シーリング材、補修スプレー、補修塗料などは、製品安全データシート
　に従って、正しくご使用ください。
●落ち葉やごみなどは作業者の足を滑らせたり、目を傷つけたりして事故
　の原因となることがありますのでご注意ください。毎日の作業前・終了
　後は、現場の掃除をしてください。

免責事項

金属外装材は、建築材料・製品として、十分満足できる品質・性能を備えていますが、正しい施工と適切な維持管理がなされることによって、初めて耐久性や対候性、その他の機能が発揮されるものです。
下記の項目に反した使用により不具合が発生した場合、弊社では責任を負いかねます。ご了承ください。

●貴社の施工管理が十分なされなかったことに起因する場合。
●施工店による施工や、取り扱いが原因で不具合が生じた場合。
●入居者（管理人を含む）又は第三者による維持管理不行き届き並
　びに故意・過失に因る場合。
●建物の構造上に起因する変形、変位または結露、下地材の腐朽等
　による不具合が発生した場合。
●施工に起因する事故、および釘部の錆、切粉・加工屑・落ち葉・
　動物の排泄物・粉塵等が原因で汚れ等が発生した場合。
●瑕疵を発見後、速やかに通知が出されなかった場合。
●シーリング部に不具合が発生した場合。
●経年劣化による軽度の色ムラ及び埃の堆積による変色や白化現象、
　苔、藻、カビ等の発生による汚水や変色。
●建築基準法および関係法規に違反した使用により不具合が生じた
　場合。
●天変地異・周辺環境・大気汚染等公害・塩害に起因する特殊環境
　下で不具合が生じた場合。
●契約当時、実用化された技術では予測することが不可能な現象に起因
　する場合。
●外装材以外の用途で使用し、不具合が生じた場合。
●水が溜まる状態の部分の塗膜損傷および電蝕作用が原因で不具合が生
　じた場合。
●不適当な他材料（胴、鉛、銅イオンを防腐処理した木材等）と組み合
　わせて使用したことに起因する場合。
●外壁工事完了後における増改築・補修並びに太陽光発電システムやア
　ンテナ等の設置或いは付属品等の取付けに因る場合。
●特殊環境地域（温泉場や絶えず蒸気等により製品が濡れている様な環
　境の地域、焼却炉付近、特殊ガス・熱・酸・アルカリ・塩類・その他
　腐食物質を発生する施設や工場並びに地域、塩害地区、海・河川等の
　周辺でしぶきがかかるような地域、煙塵及び金属粉・石粉が堆積する
　地域）における損傷。
●その他弊社の責に因らない損傷に起因する場合。

その他ご不明な点がありましたら弊社にご相談ください。

目　次

頁

角波Ｄ－Ⅰ型、Ｄ－Ⅱ型　施工の手引きご使用にあたって　…………………… 1

安全上のご注意　…………………………………………………………… 2

目　次　…………………………………………………………………… 3

［１］施工の手順

　（1）段取りと施工の手順 ……………………………………………… 4

　（2）施工上のご注意 …………………………………………………… 4

［２］角波Ｄ－Ⅰ型、Ｄ－Ⅱ型　製品仕様

　（1）特長　……………………………………………………………… 5

　（2）製品本体　………………………………………………………… 5

　（3）製品仕様　………………………………………………………… 6

　（4）役物（オプション）………………………………………………… 6

　（5）サイディング納め構成図 ………………………………………… 7

　（6）サイディングの割付け　………………………………………… 8

　（7）重ね部の嵌合要領　……………………………………………… 9

［３］各部位の納まり

　（1）下地（胴縁）間隔の確認 ………………………………………… 10

　（2）外装下地材（プラスターボード等）の取付けおよび割付墨出し縦 …… 11

　（3）土台水切の取付け　……………………………………………… 12

　（4）防水紙（透湿防水シート）の取付け　………………………… 13

　（5）開口部廻りの納まり ……………………………………………… 14

　（6）ケミカル面戸の取付け　………………………………………… 19

　（7）出隅の納まり　…………………………………………………… 20

　（8）入隅の納まり　…………………………………………………… 22

［４］外壁防火構造仕様について

　（1）建築基準法　仕様規定　………………………………………… 24

　（2）個別大臣認定　…………………………………………………… 25

　　①サイディング納め構成図　……………………………………… 25

　　②下地（胴縁）間隔の確認　……………………………………… 26

　　③外装下地材（下張材）の取付け ………………………………… 27

　　④外装下地材（上張材）の取付け ………………………………… 28

　　⑤土台水切の取付け ………………………………………………… 29

　　⑥防水紙の施工　…………………………………………………… 30

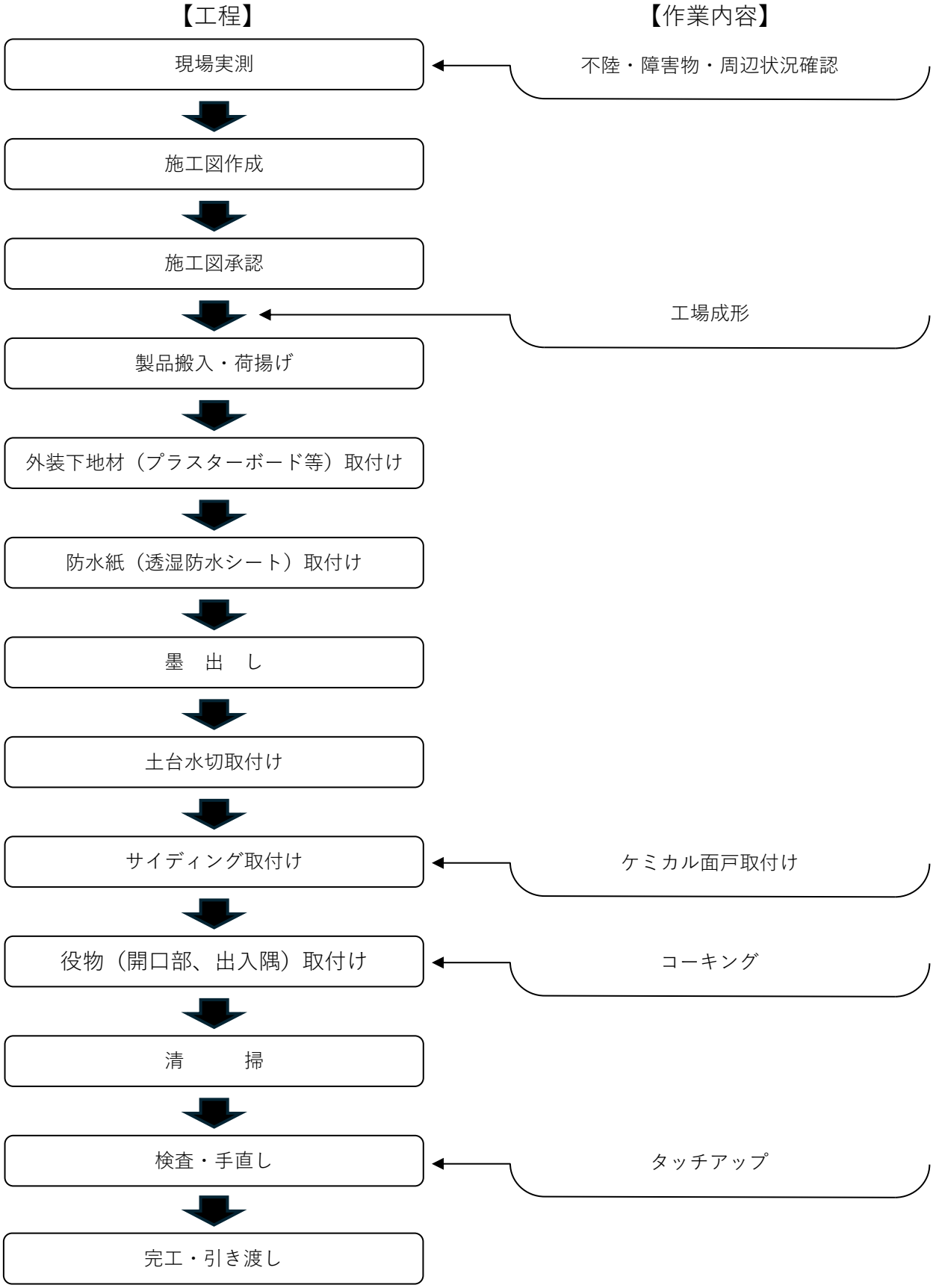
　　　（アスファルトフェルト430品又は透湿防水シート）（省略可能）

　　⑦サイディング取付（縦重ね部） ………………………………… 31

■注意事項　………………………………………………………………… 33

[１]施工の手順

（１）段取りと施工の手順



（２）施工上のご注意

①防水材は透湿防水シートをご使用下さい。

②サイディング本体および役物を取付けるビスは、下地に合わせた取付ビスを使用して下さい。

③サイディング本体および役物に切り粉が付着した場合は確実に取り除いて下さい。

④作業時に生じた傷は補修液でタッチアップして下さい。

[2]角波D－Ⅰ型、D－Ⅱ型　製品仕様

（1）特長

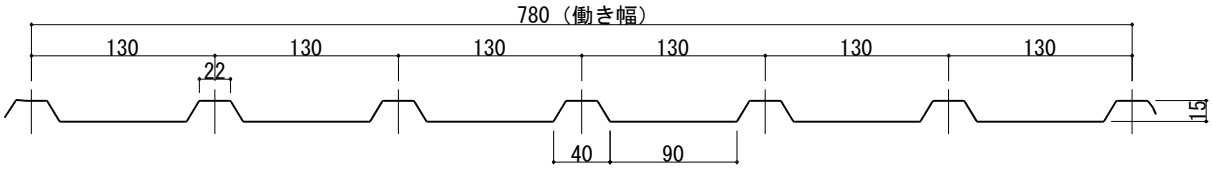
・ 縦張り、横張り兼用できます。

・ 働き幅を広くとった経済的な角波です。

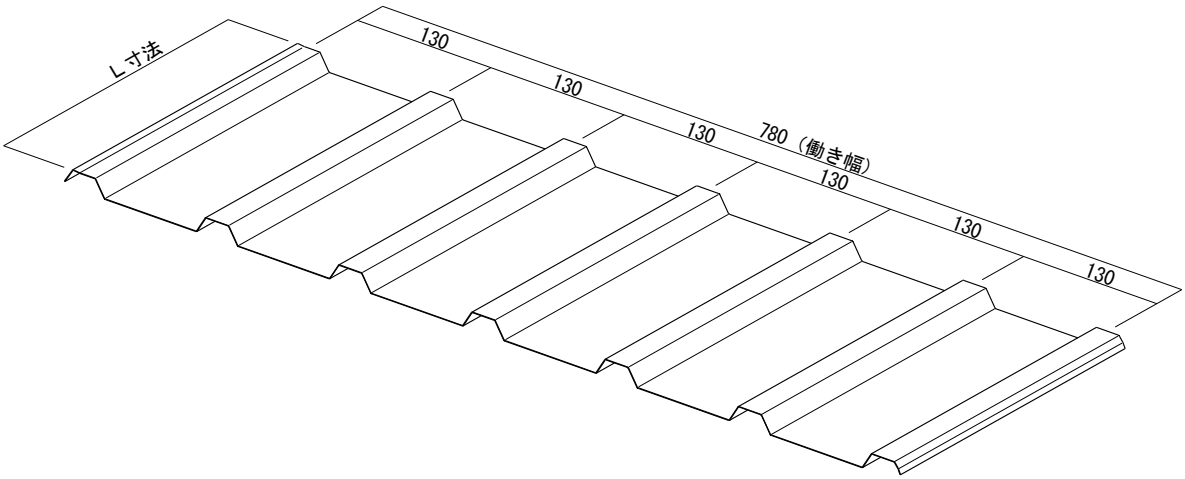
・ リブ付加工もでき、より陰影に変化のある壁面がデザインできます。

（2）製品本体

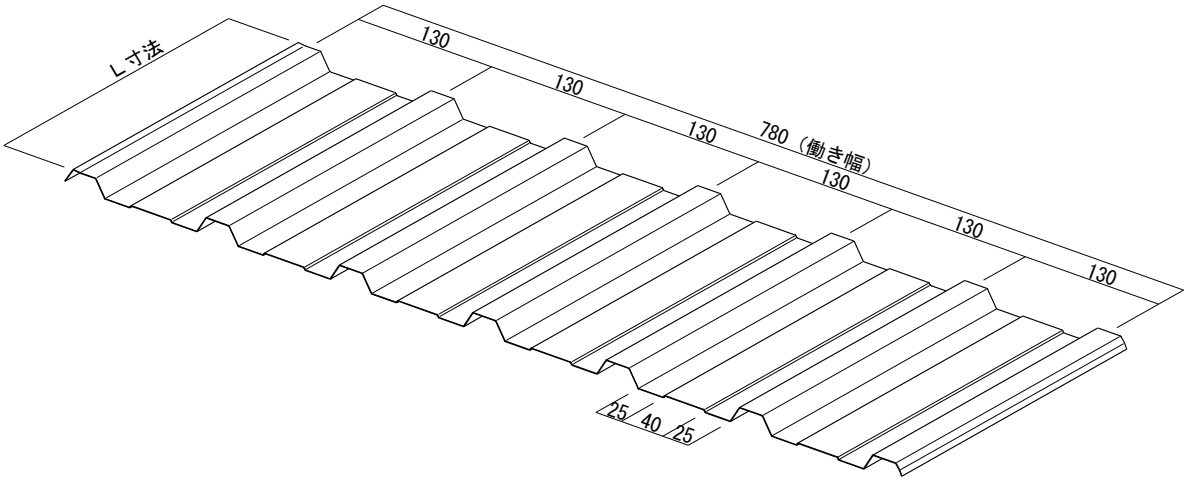
＜角波D－Ⅰ型＞



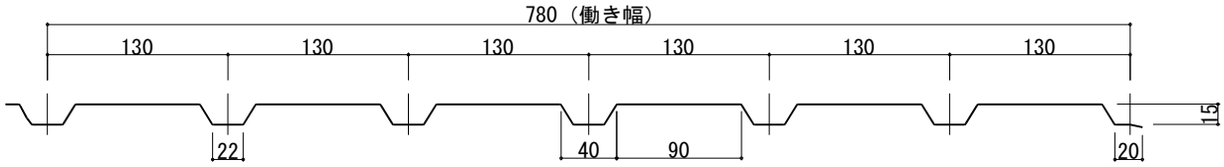
●フラットタイプ



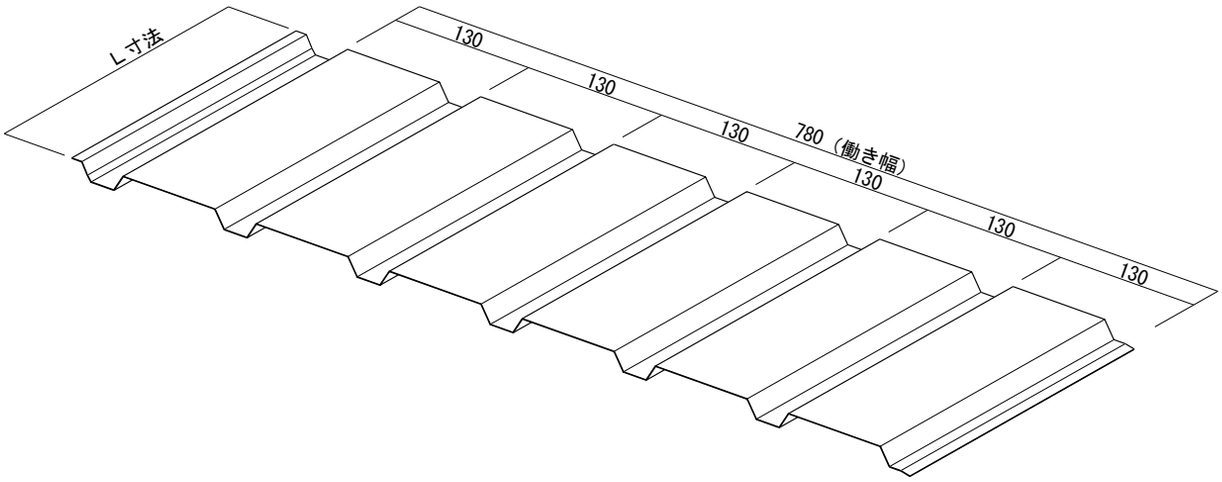
●リブ付タイプ



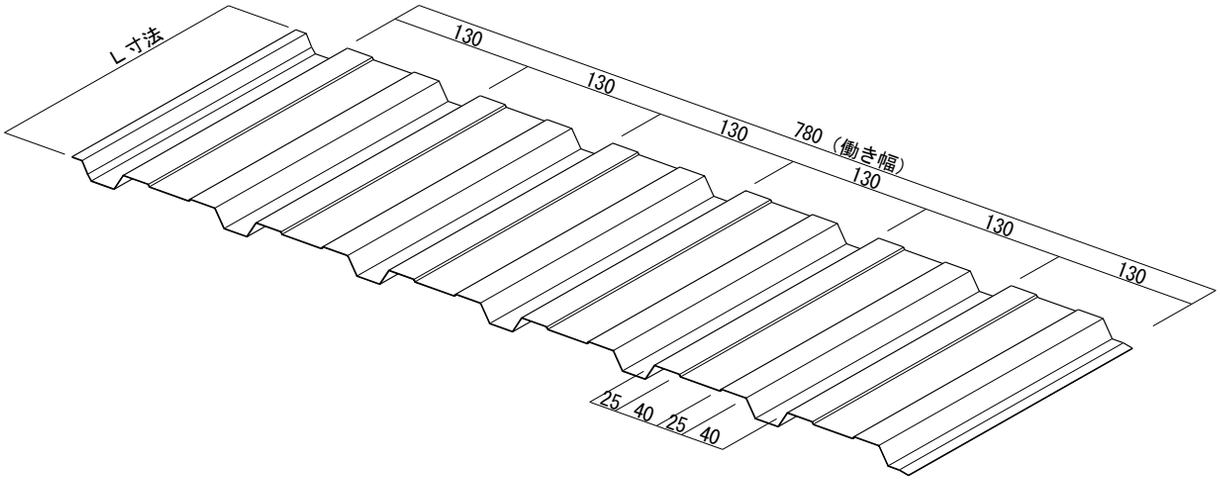
＜角波Ｄ－Ⅱ型＞



●フラットタイプ



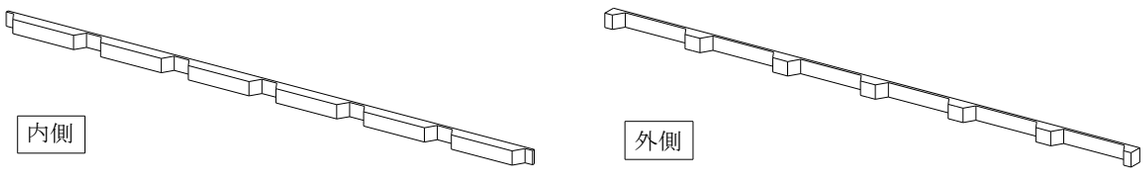
●リブ付タイプ



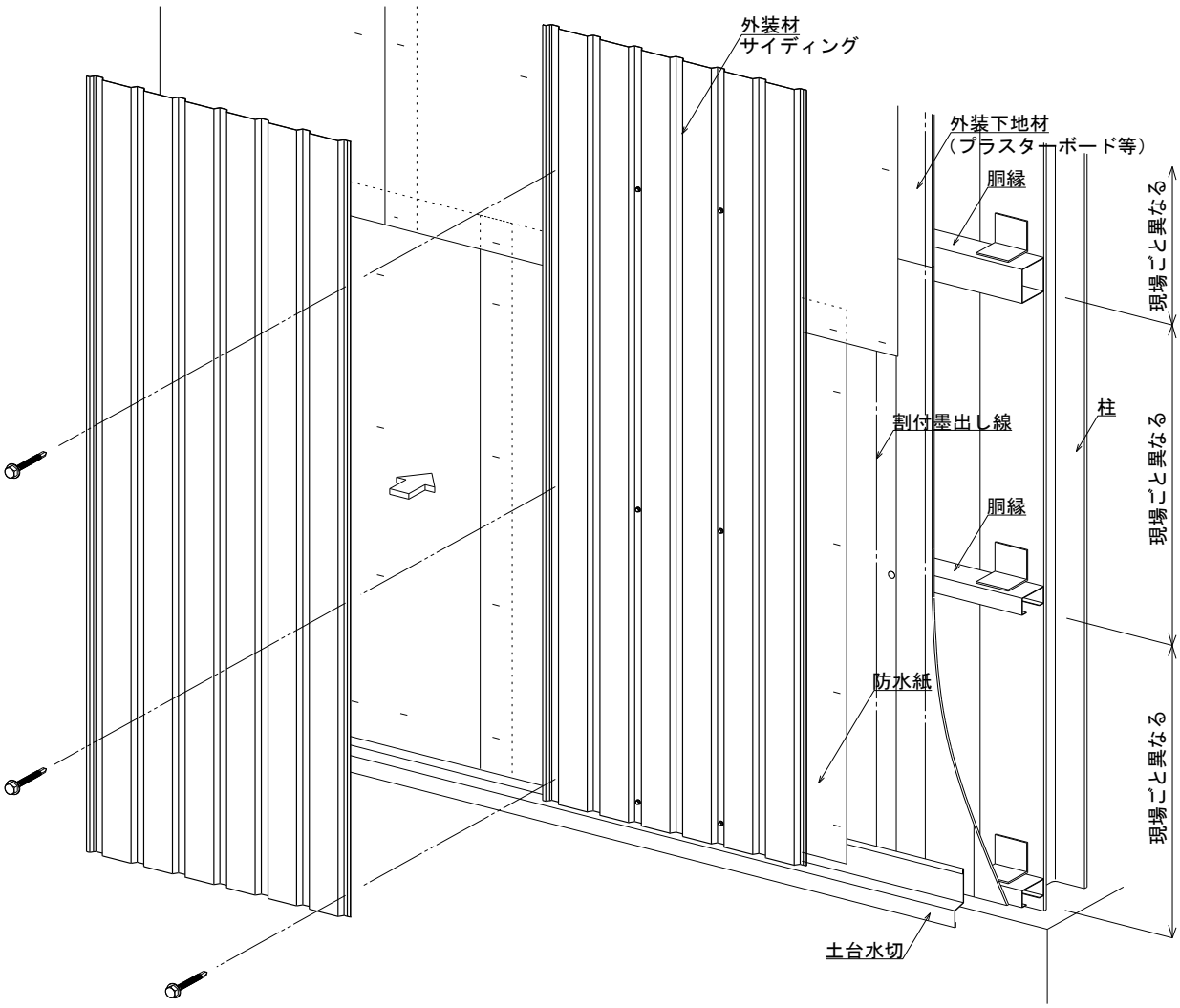
（3）製品仕様

項目	製品仕様	項目	製品仕様
単位重量	0.27㎜：2.72kg/㎡	働き幅	780㎜
	0.35㎜：3.45kg/㎡	原板幅	914㎜
	0.40㎜：3.91kg/㎡	㎡当り必要m数	1.28m
	0.50㎜：4.83kg/㎡	成形最小寸法	900㎜
使用材料	GLカラーSERiOS Prime、SGLカラーSERiOS Prime ガルバリウム鋼板、その他各種鋼板		

（4）役物（オプション）

名称	ケミカル面戸
形状	

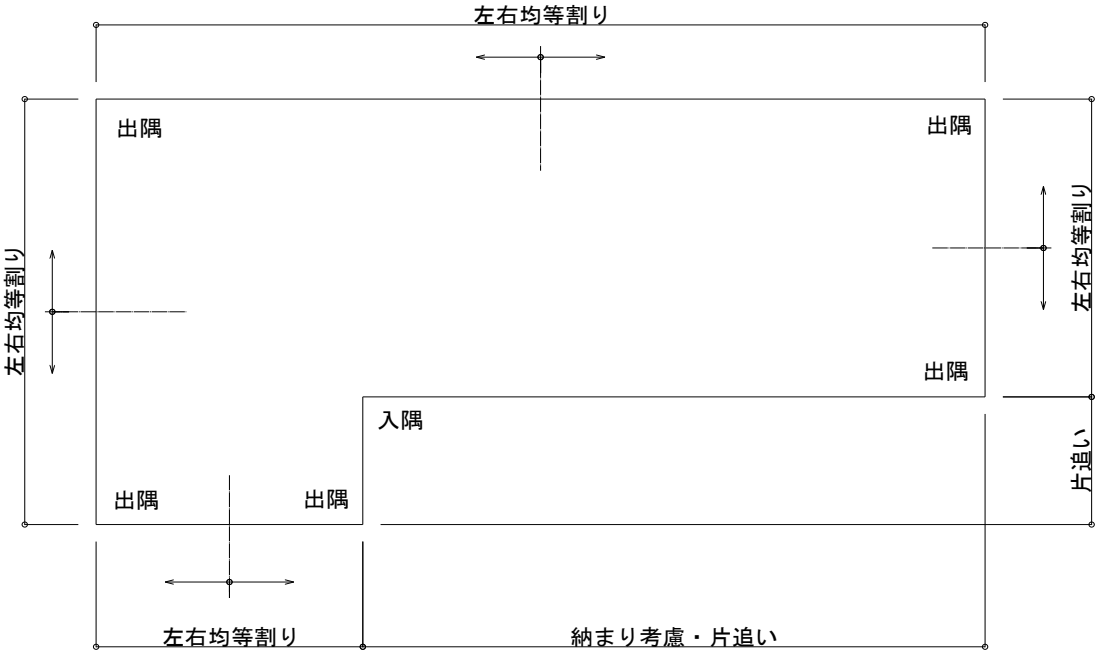
（5）サイディング納め構成図



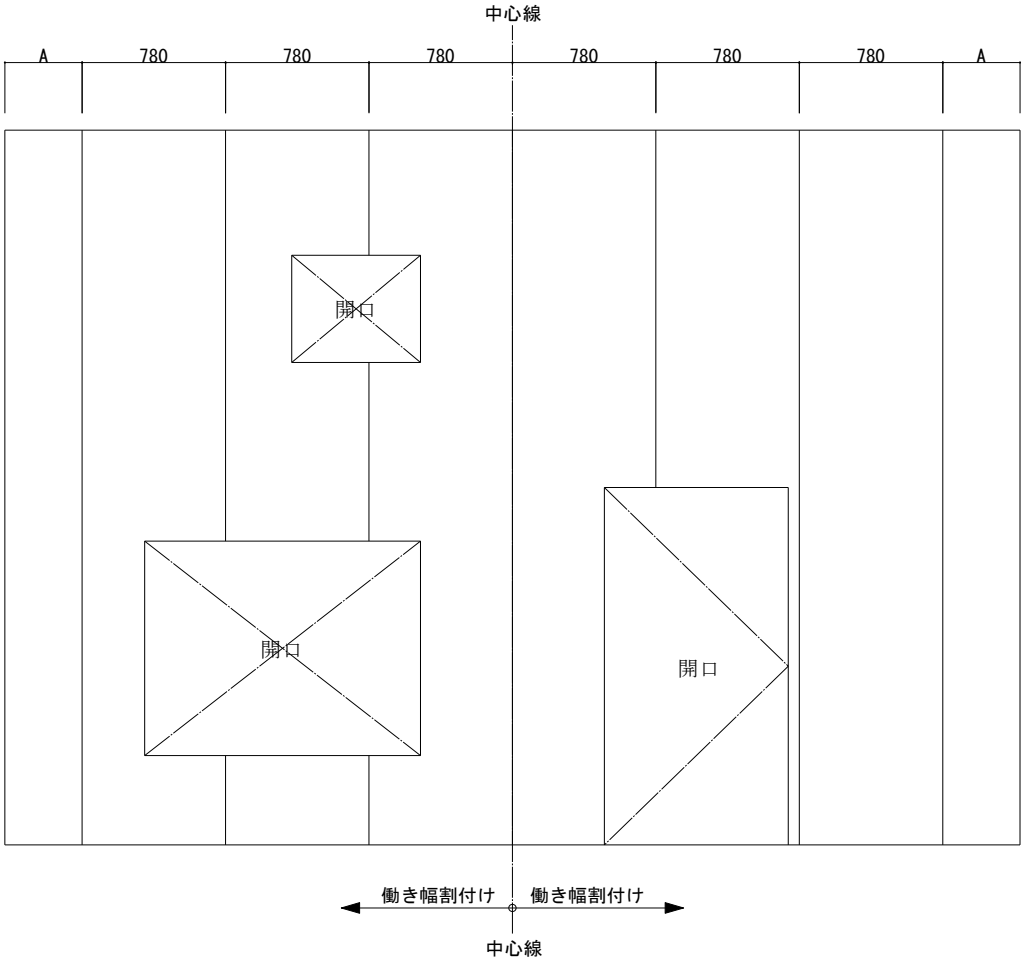
● 外装下地材（プラスターボード等）および防水紙（透湿防水シート）取付けについては、現場ごと打ち合わせの上、取付有無を決定して下さい。

（6）サイディングの割付け

● サイディングの割付けは、各壁面の中心を出し両方向に振り分けて働き幅寸法に従って割り付けます。

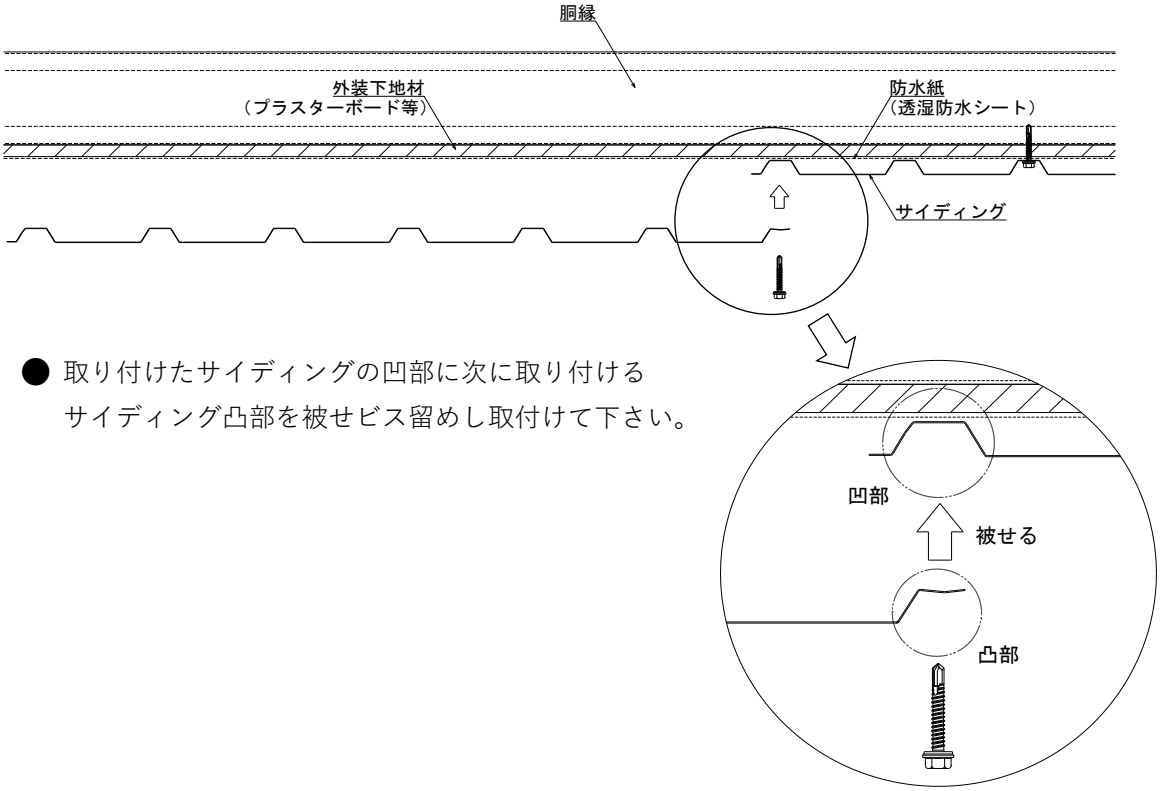


● 壁面に開口部がある場合は、開口部枠と干渉部分のサイディングを切断して取り付けます。



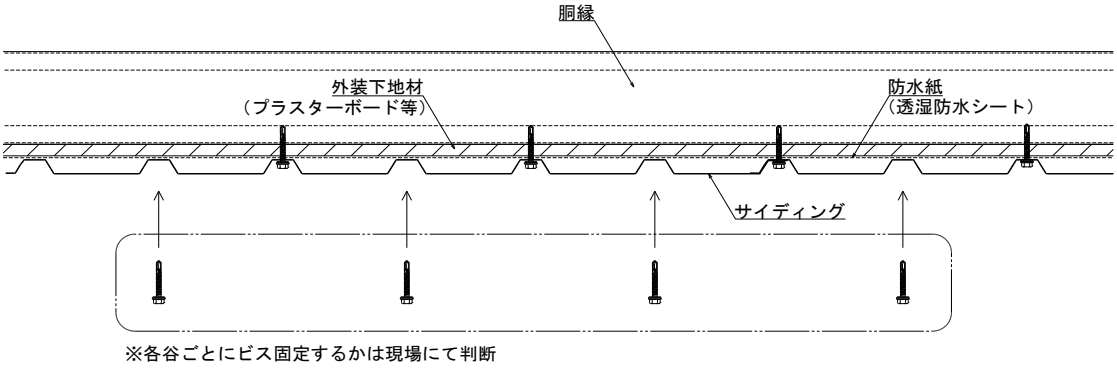
（7）重ね部の嵌合要領

＜手順１＞



● 取り付けたサイディングの凹部に次に取り付ける
サイディング凸部を被せビス留めし取付けて下さい。

＜手順２＞



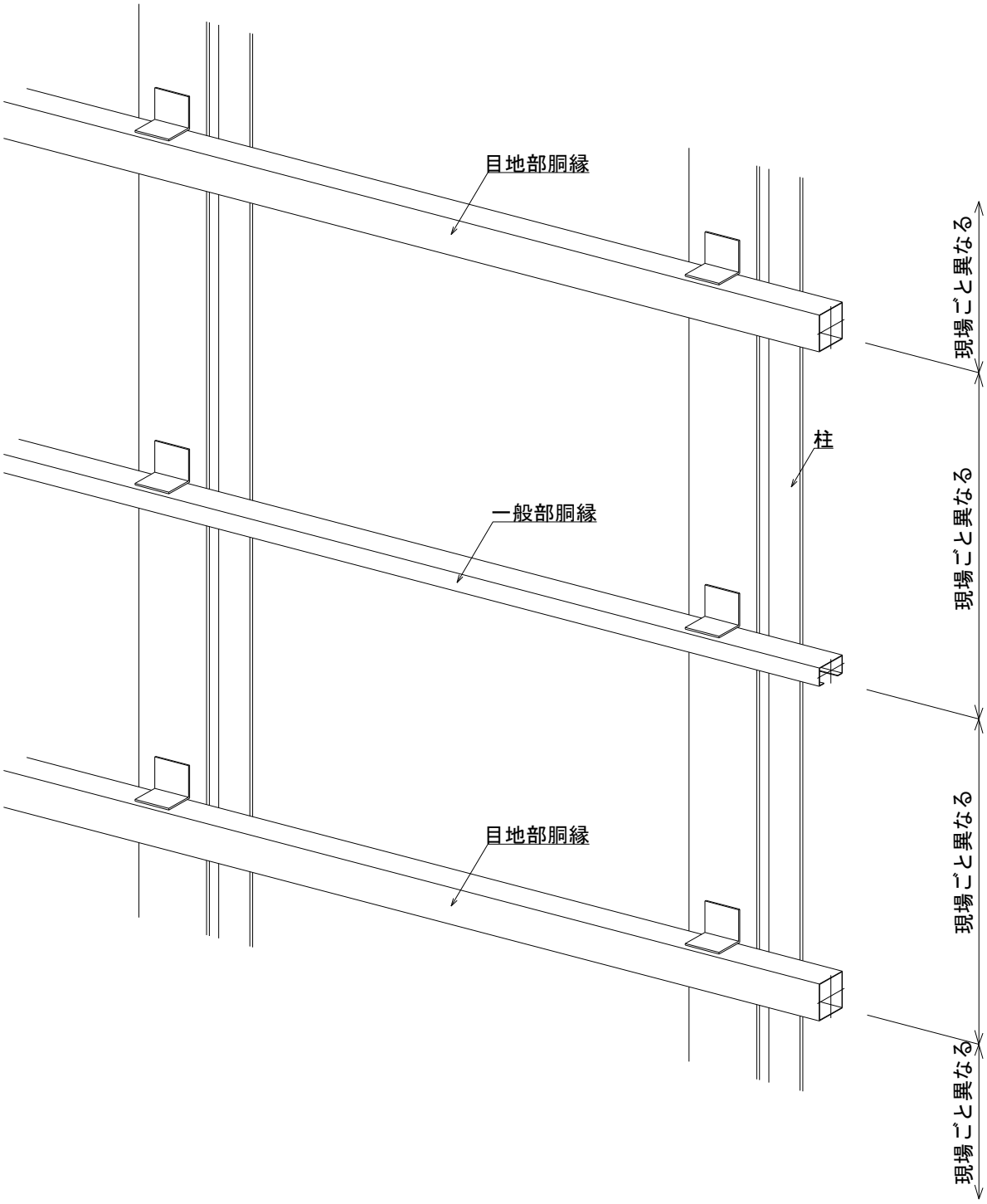
● ビス留め位置は2谷ごとにするのか、１谷ごとにするのか現場の状況に応じて決めて下さい。

＜手順３＞

● 手順１～手順２を繰り返し行い、サイディングを取付けて下さい。

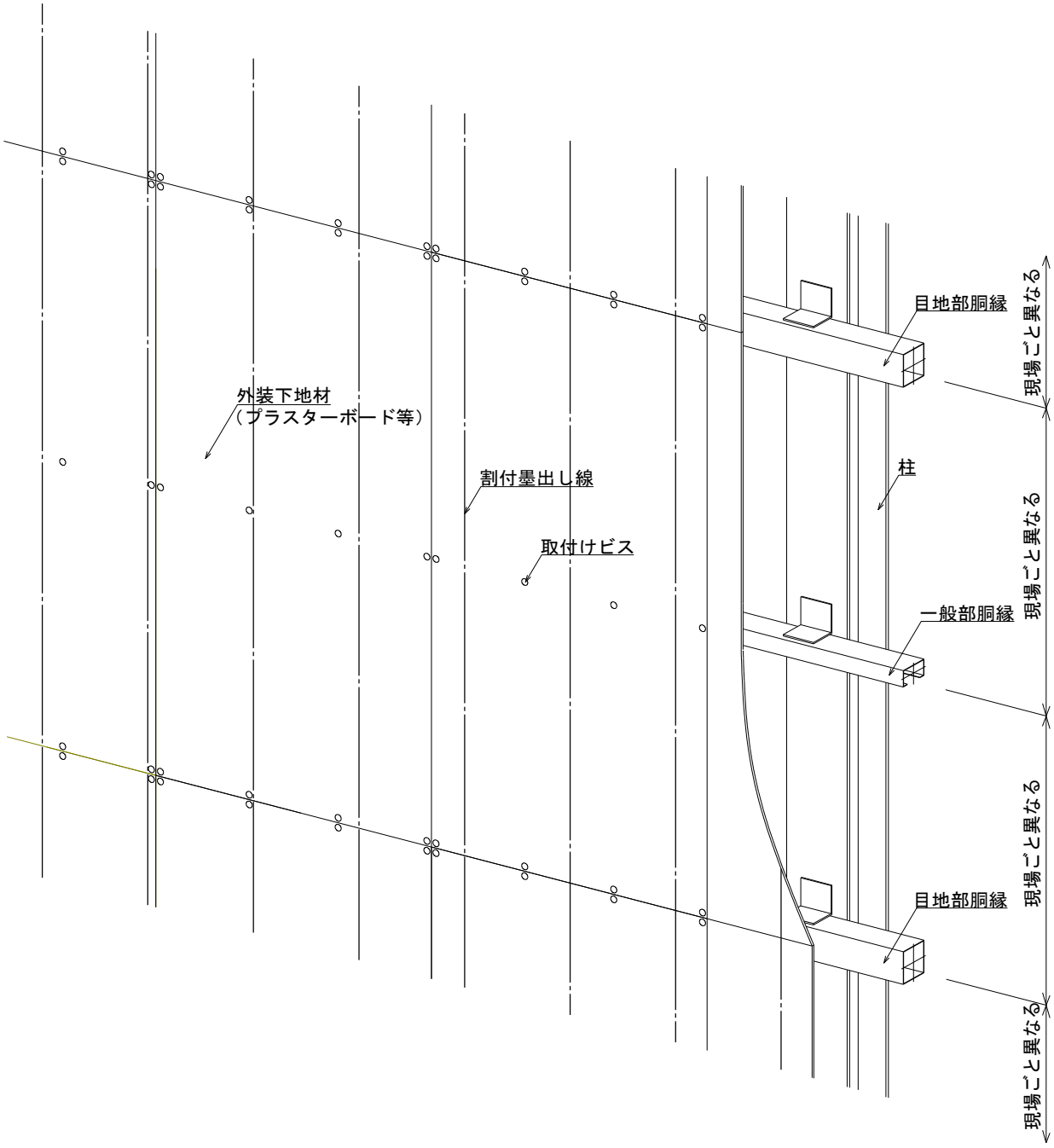
[３]各部位の納まり

（１）下地（胴縁）間隔の確認



● 外装下地材（主に継ぎ目部分）が取付けられる間隔で胴縁が取付けれらているか確認して下さい。

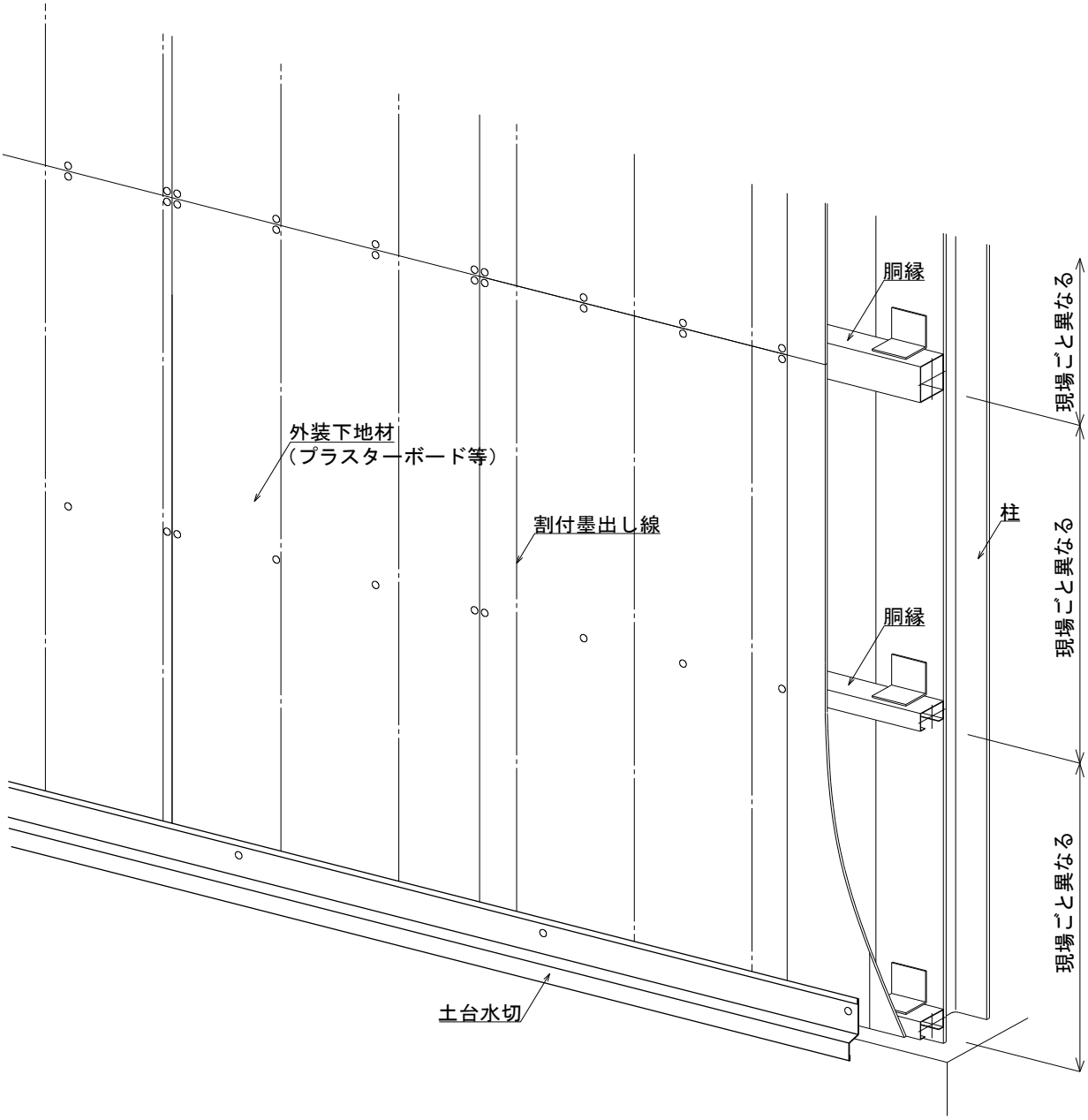
（2）外装下地材（プラスターボード等）の取付けおよび割付墨出し線



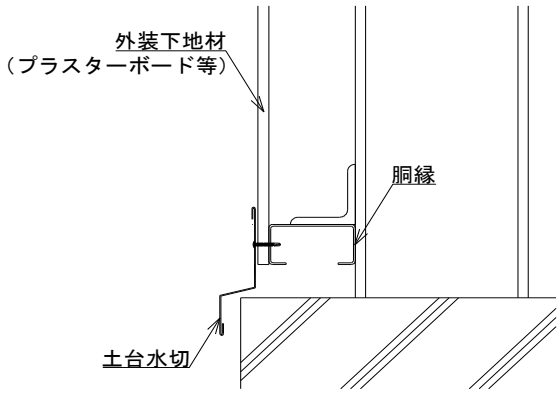
● 外装下地材（プラスターボード等）を適切な位置で隙間が開かないようにビス留めし取付けて下さい。

● サイディングの割付け位置を決め、中心線を基準に左右一定間隔で墨出し線を表示させて下さい。
例） 墨出し線表示間隔：働き幅 4～5枚ごと

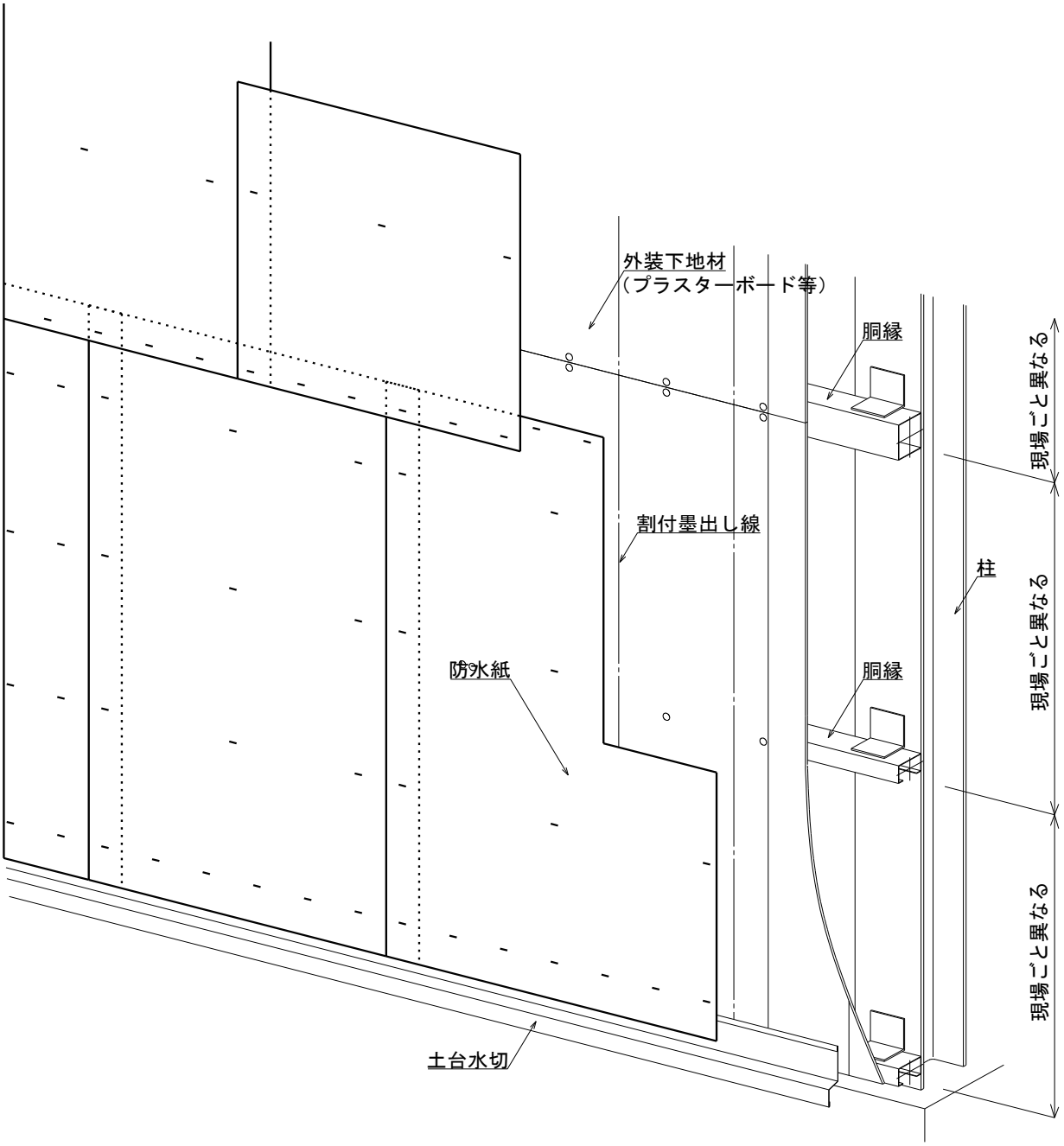
（3）土台水切の取付け



● 最下部の胴縁へ土台水切をビス留めし取付けて下さい。



（4）防水紙（透湿防水シート）の取付け

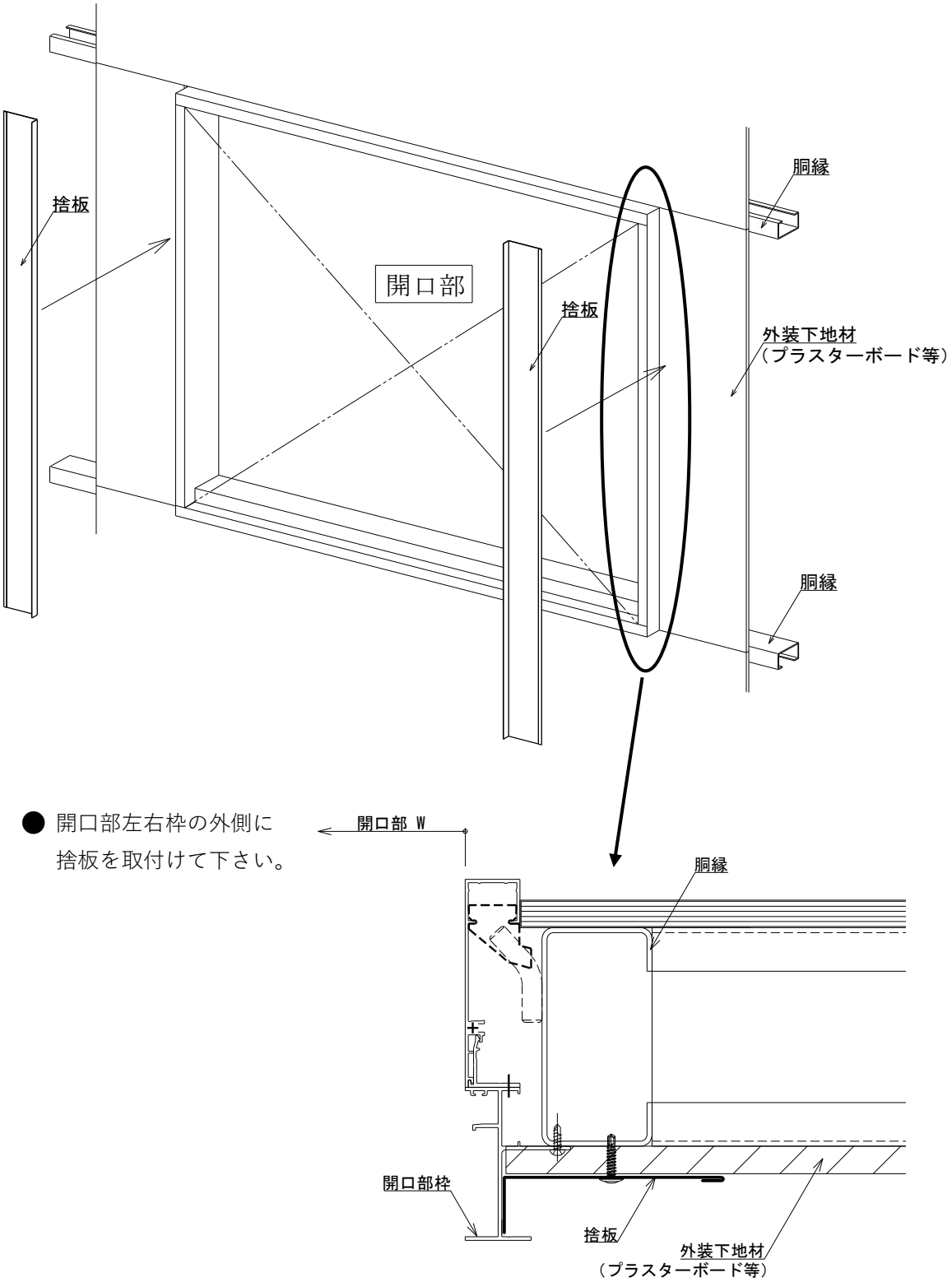


● 防水紙（透湿防水シート）の縦重ね・横重ねは隙間が開かないように重ね、ステープルで固定して下さい。

● 防水紙（透湿防水シート）は土台水切と外装下地材の間に入れず、土台水切の外側へ出して取付けて下さい。

（5）開口部廻りの納まり

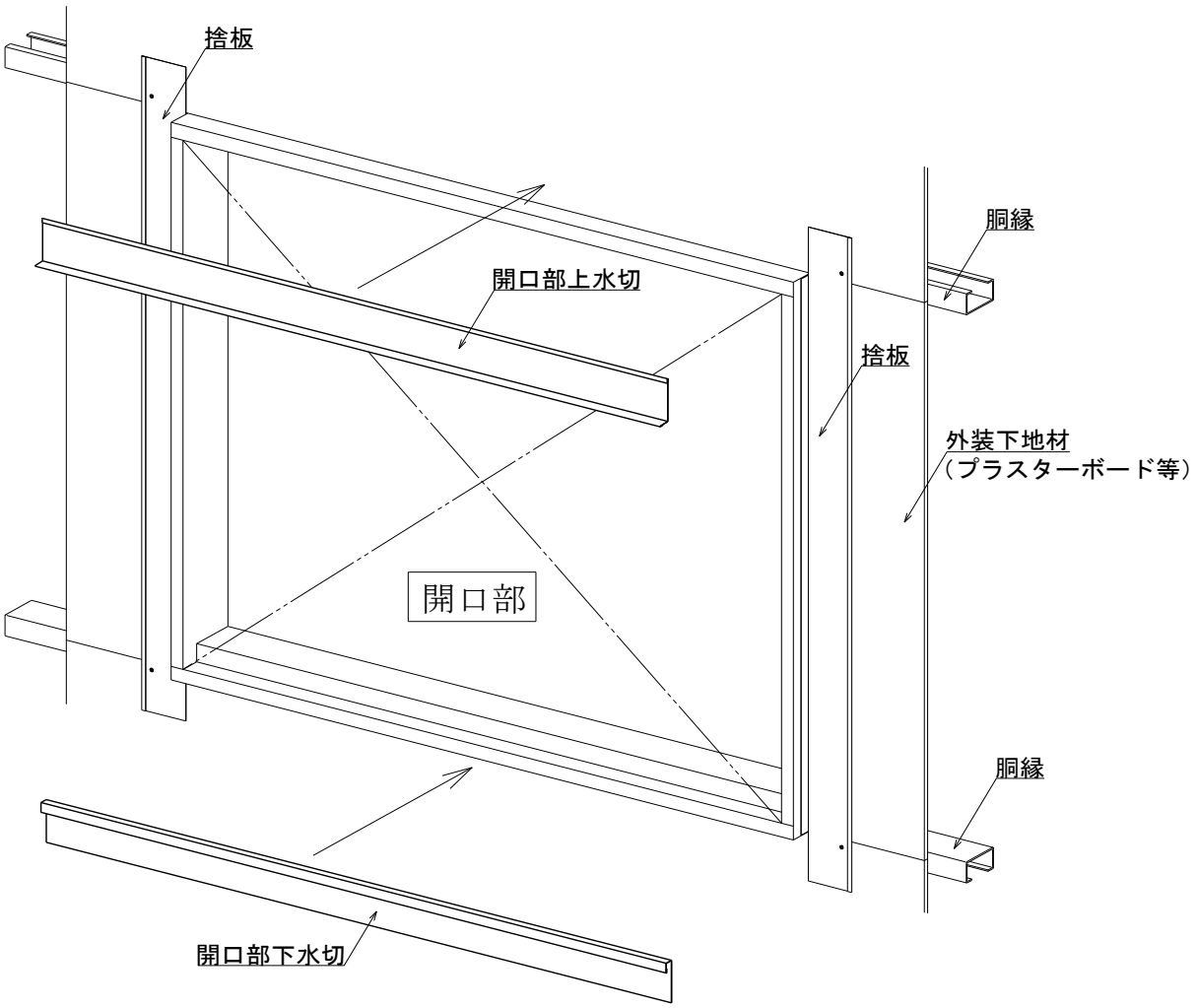
①捨板の取付け

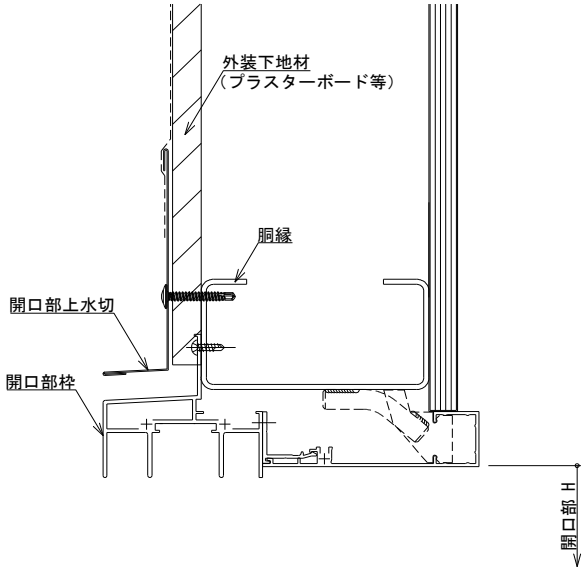


● 開口部左右枠の外側に捨板を取付けて下さい。

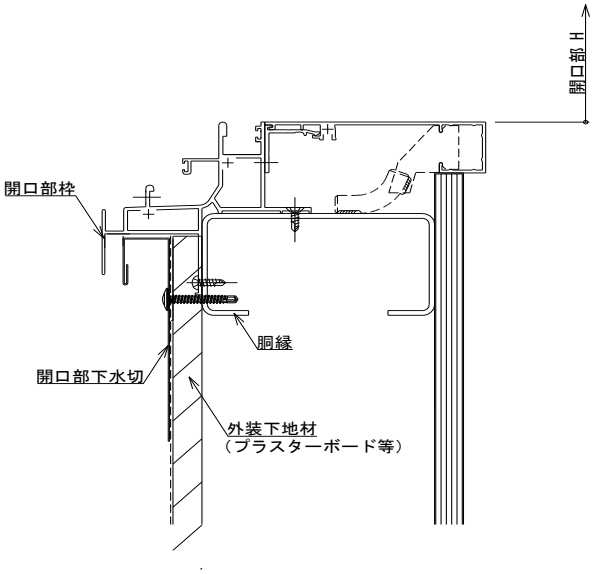
②開口部上・下水切の取付け

● 開口部上下枠の外側に水切を取付けて下さい。



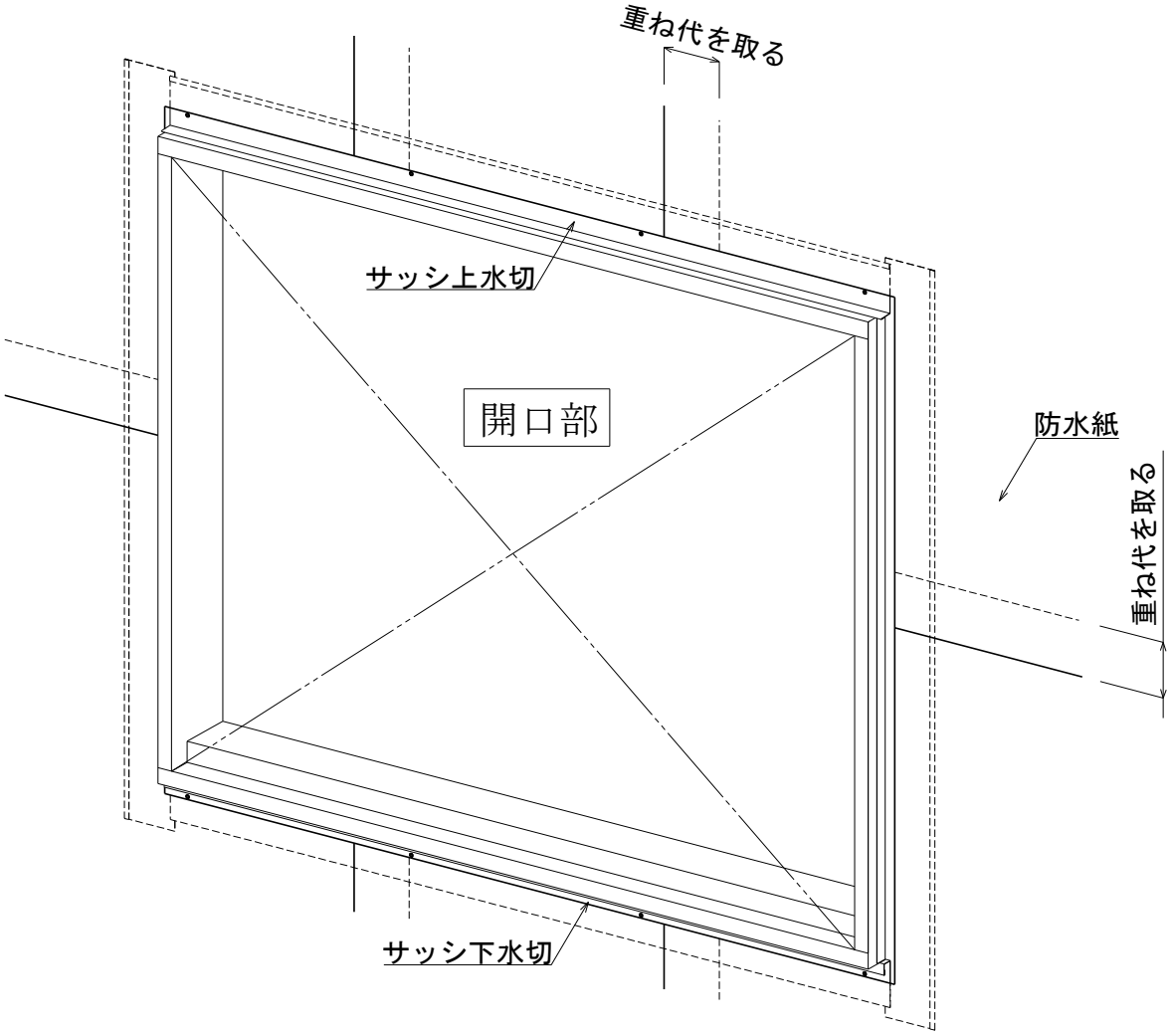


＜開口部上水切　取付納め＞



＜開口部下水切　取付納め＞

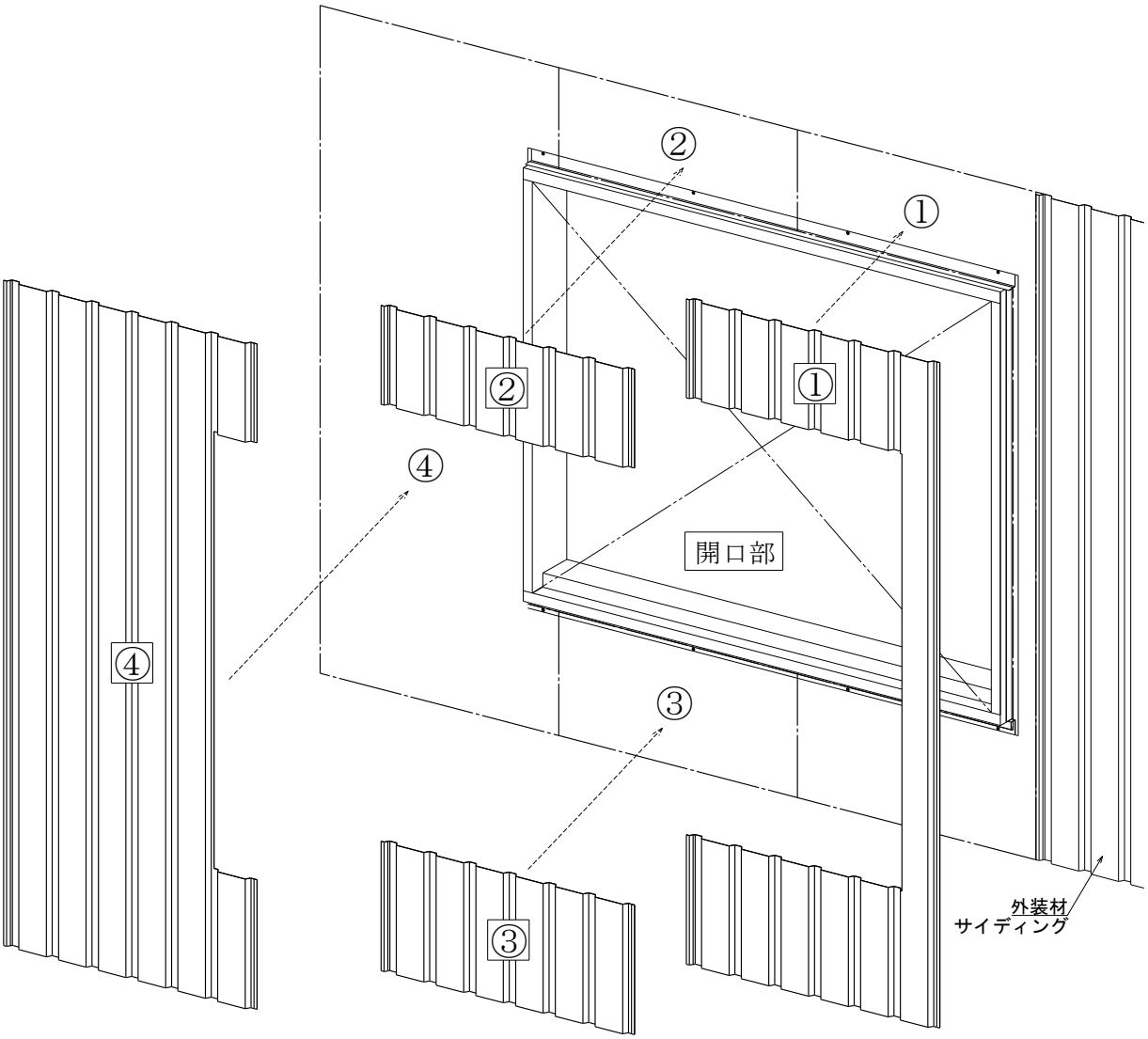
③防水紙の取付け



● 防水紙（透湿防水シート）の縦重ね・横重ねは隙間が開かないように重ね、ステープルで固定して下さい。

● 防水紙（透湿防水シート）はサッシ上水切と外装下地材の間に入れず、サッシ上水切切の外側へ出して取付けて下さい。

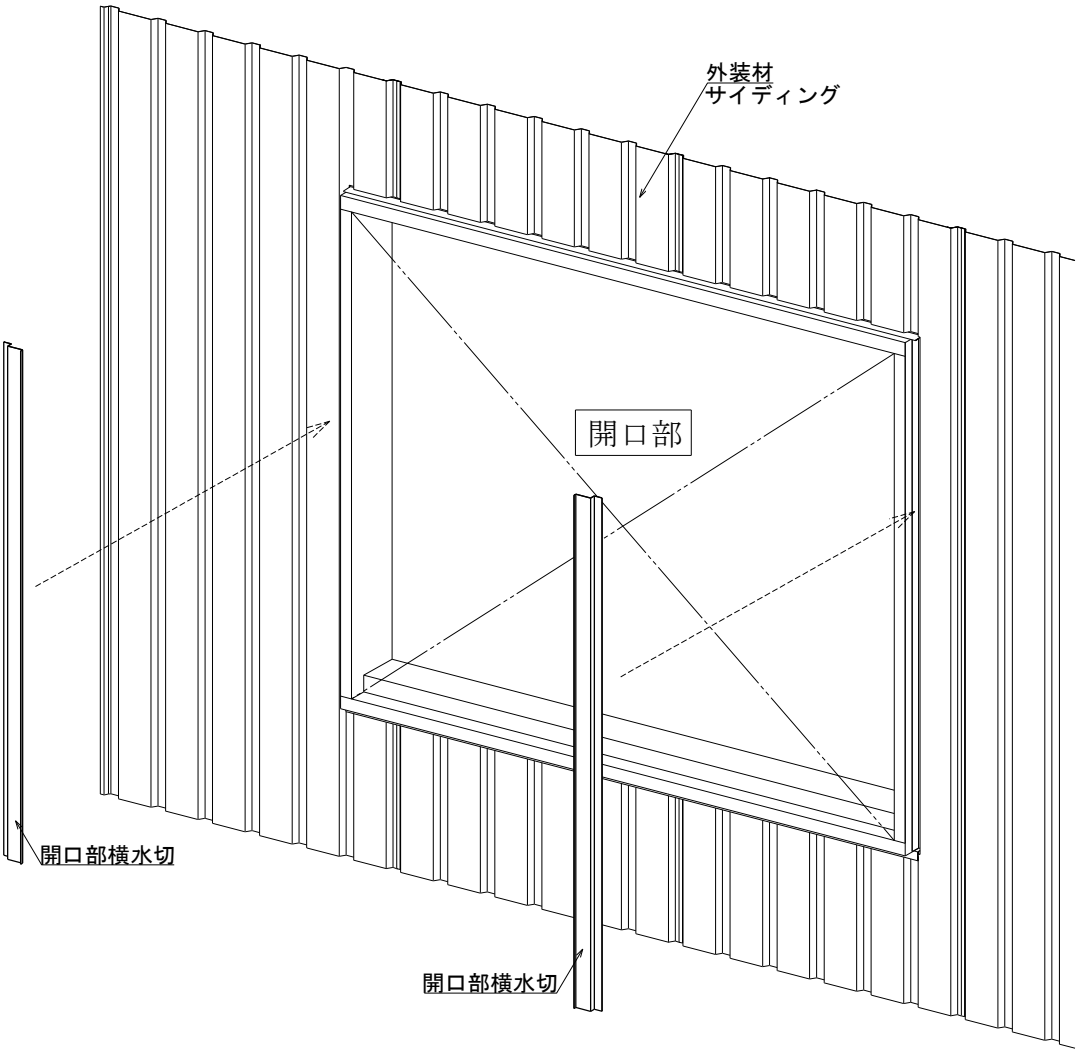
④サイディングの取付け

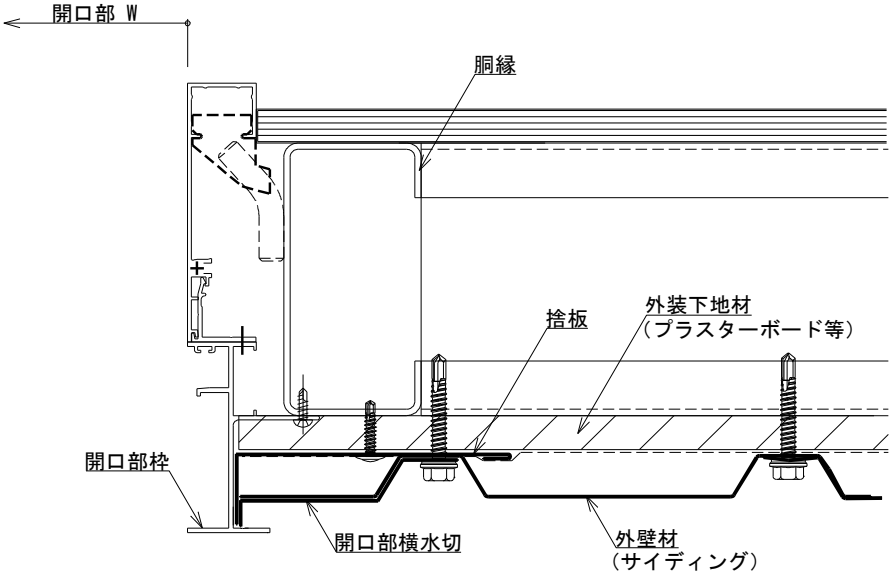


● 開口部枠と干渉する外装材（サイディング）は必要に応じて切断し取付けて下さい。
作業中に出た加工片や切粉は、錆の原因となりますので、確実に取り除いてください。

⑤開口部横水切の取付け

● 開口部左右枠の外側に水切を取付けて下さい。

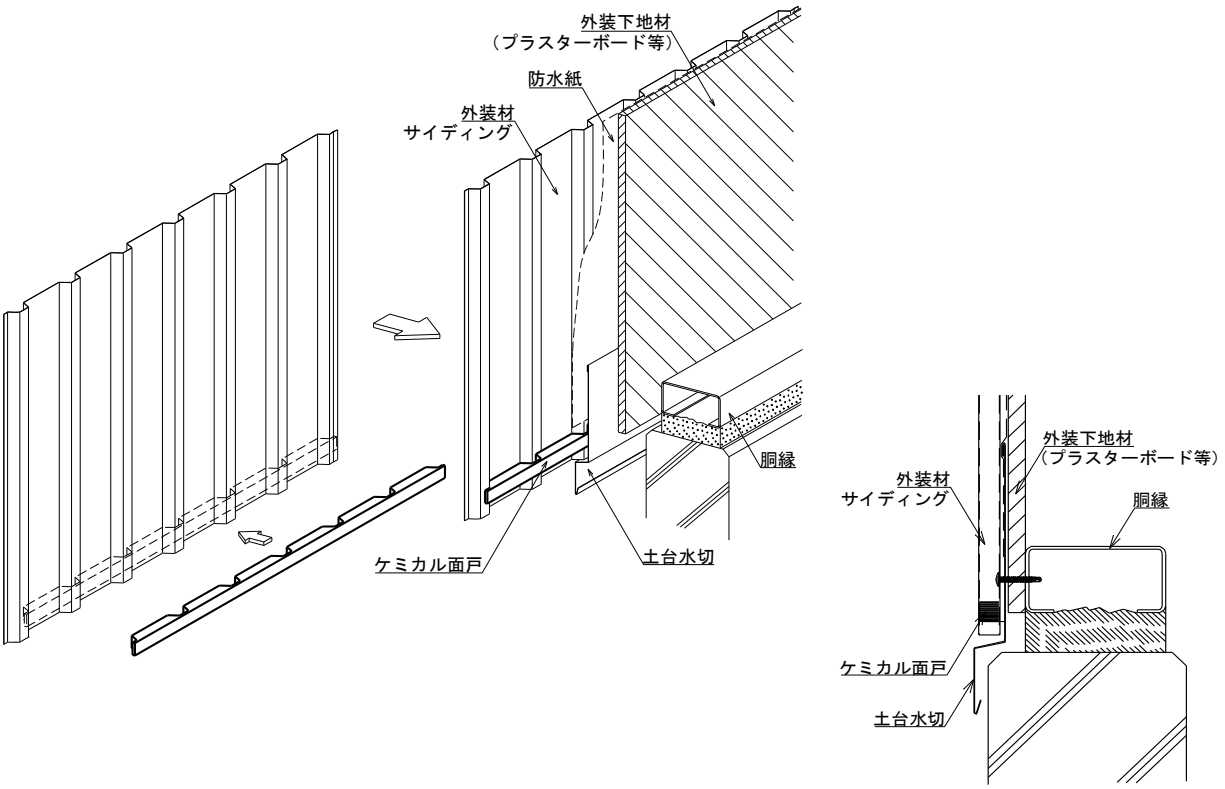




（6）ケミカル面戸の取付け

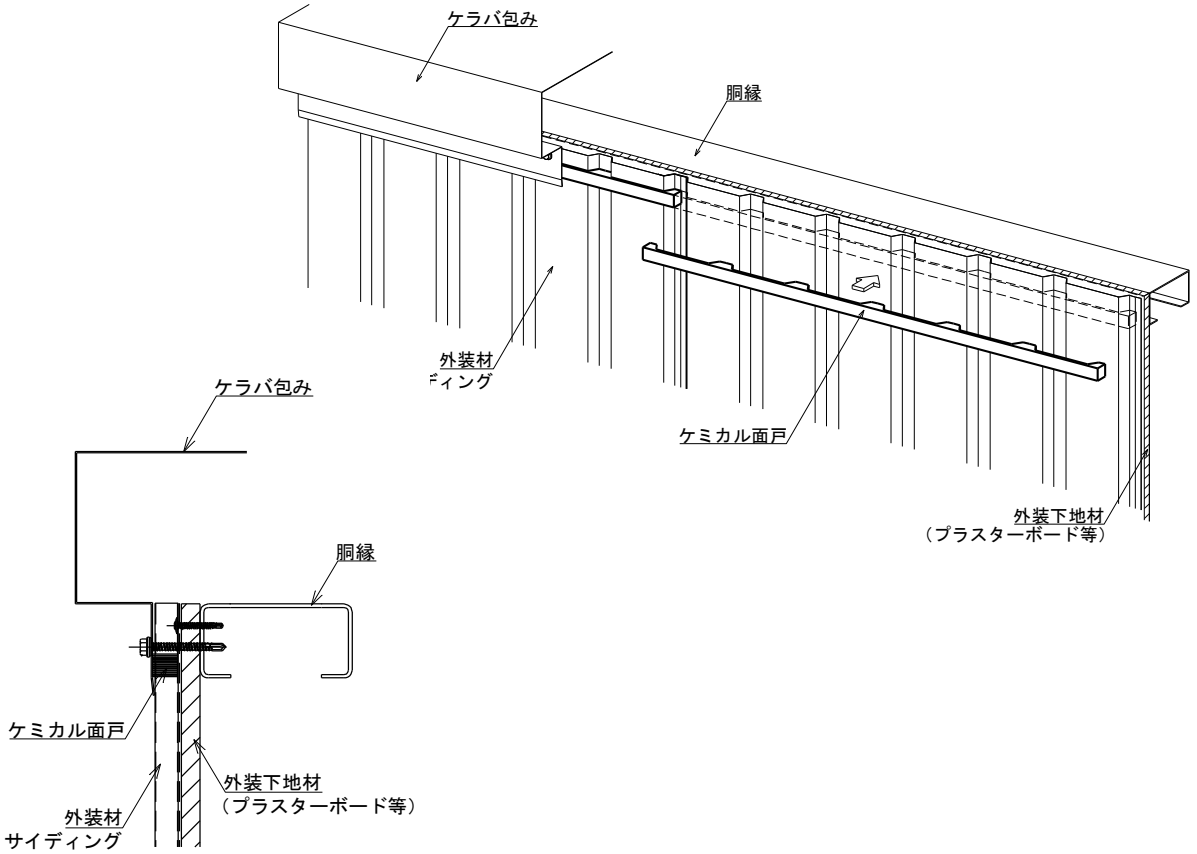
①水下部

● 土台水切とサイディングの隙間から雨水等の浸入を塞ぐため、サイディングの裏面（室内側）へ取付けて下さい。



②水上部

● ケラバ包みとサイディングの隙間から雨水等の浸入を塞ぐため、サイディングの表面（室外側）へ取付けて下さい。

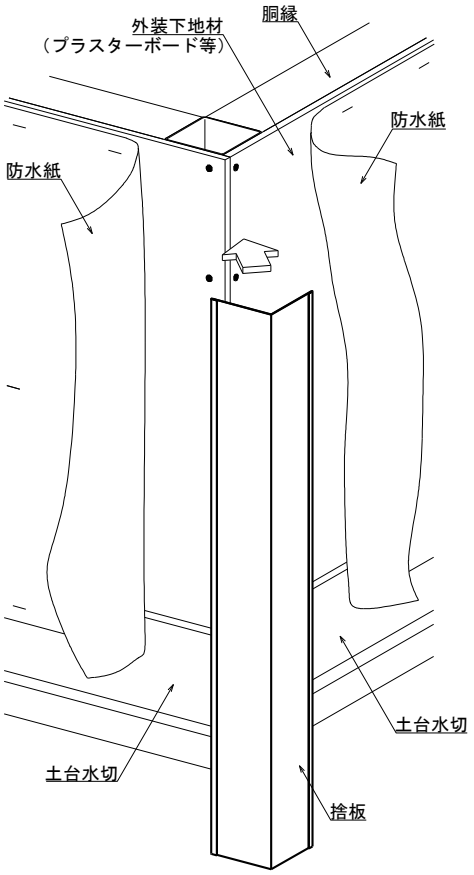


（7）出隅の納まり

①捨板の取付け

● 外装下地材の上に捨板をビス留めし取付けて下さい。

● 捨板を取付けた後に防水紙を捨板の外側へ被せるように取付けて下さい。

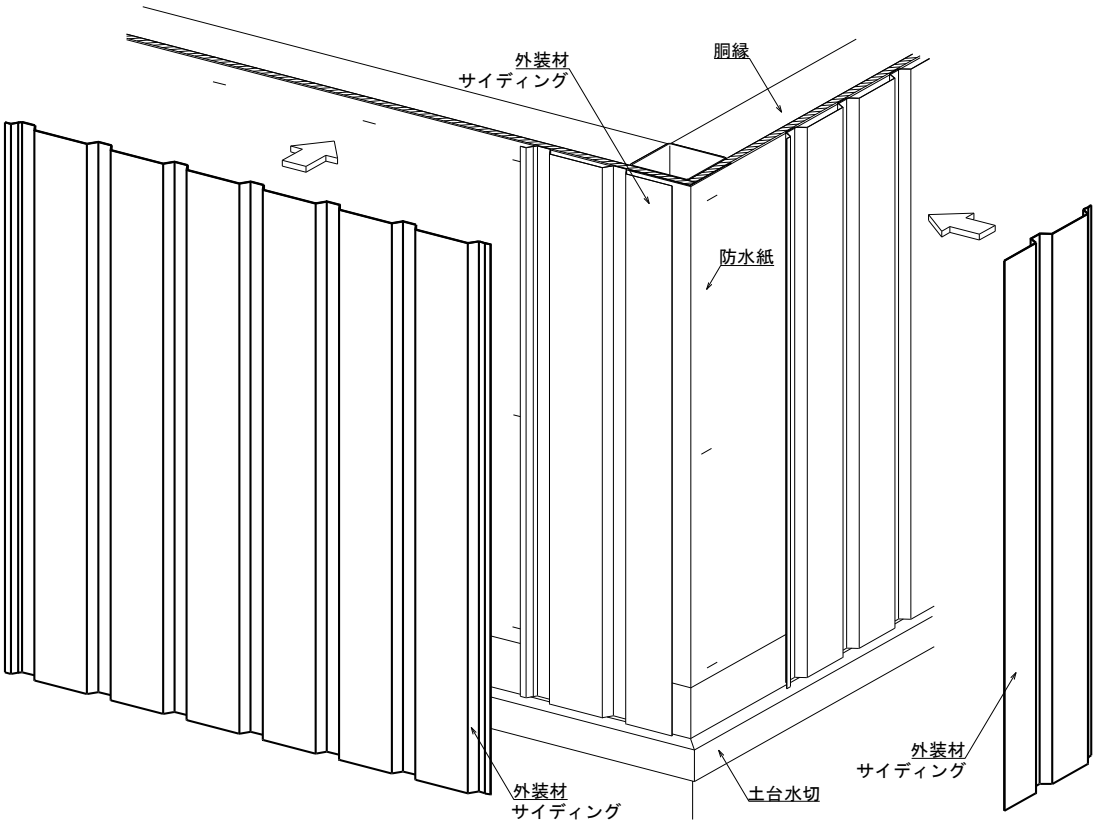


②出隅コーナー部のサーディングの取付け

● サイディングを割付位置に合わせビス留めし取付けて下さい。

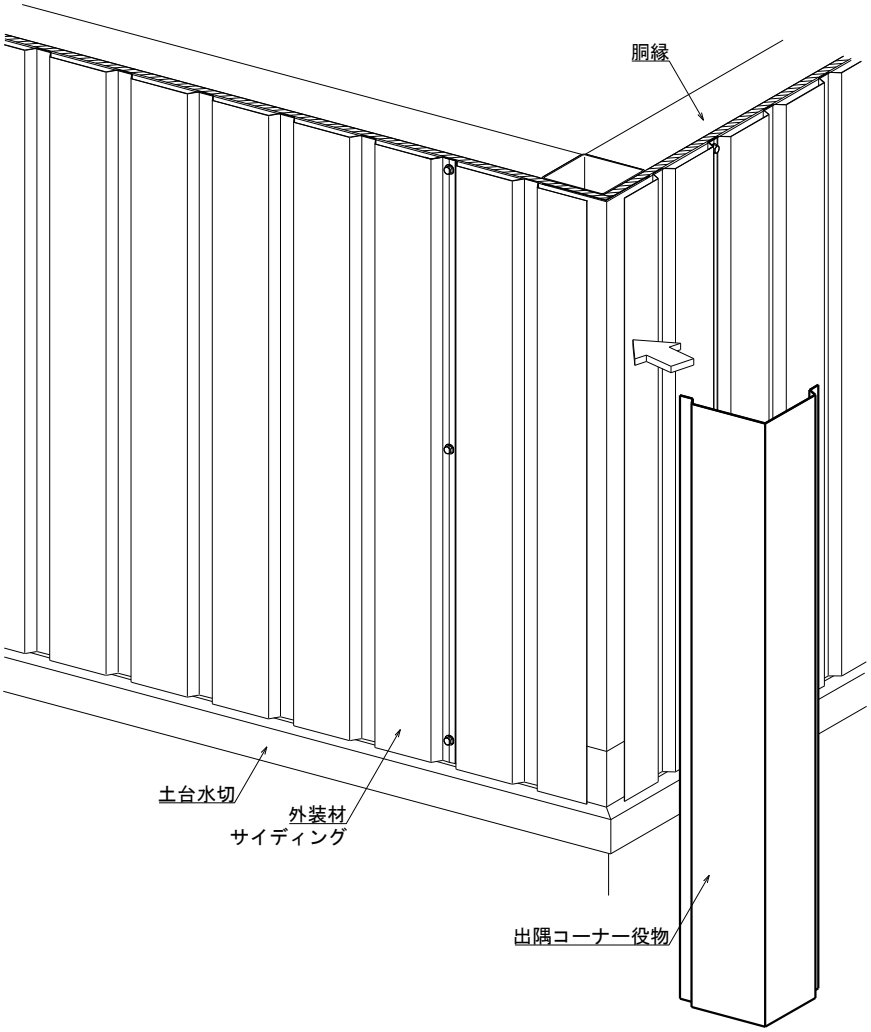
● 出隅コーナー役物と干渉するサイディングは納まりに合わせ切断して下さい。

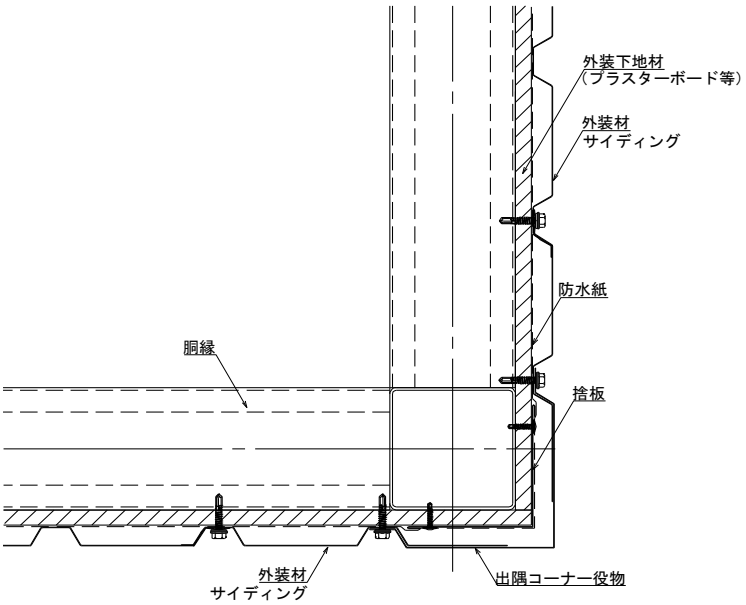
● サイディング本体および出隅コーナー役物に切り粉が付着した場合は確実に取り除いて下さい。



③出隅コーナー役物の取付け

● 出隅コーナー役物をコーナー部のサイディングに被せビス止めし取付けて下さい。



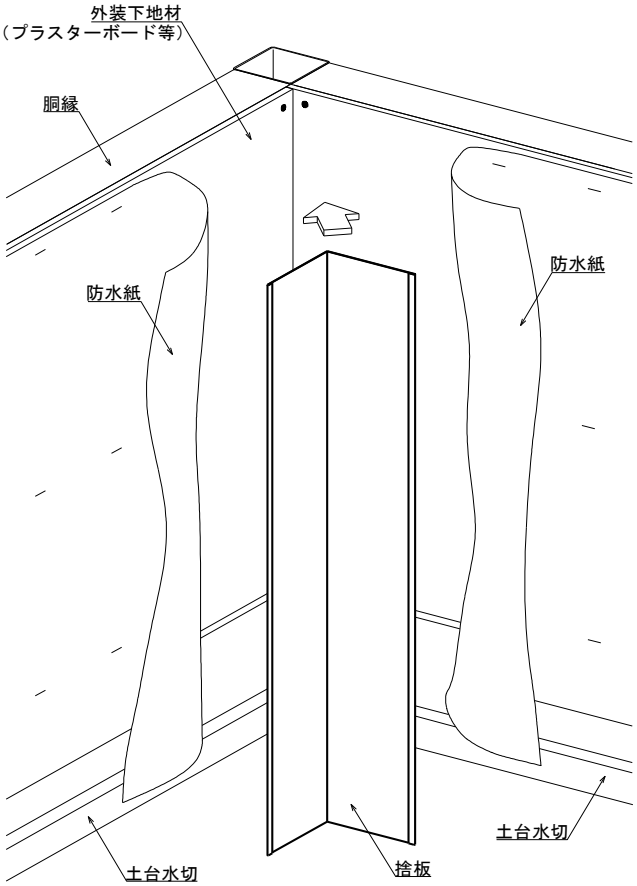


（8）入隅の納まり

①捨板の取付け

● 外装下地材の上に捨板をビス留めし取付けて下さい。

● 捨板を取付けた後に防水紙を捨板の外側へ被せるように取付けて下さい。

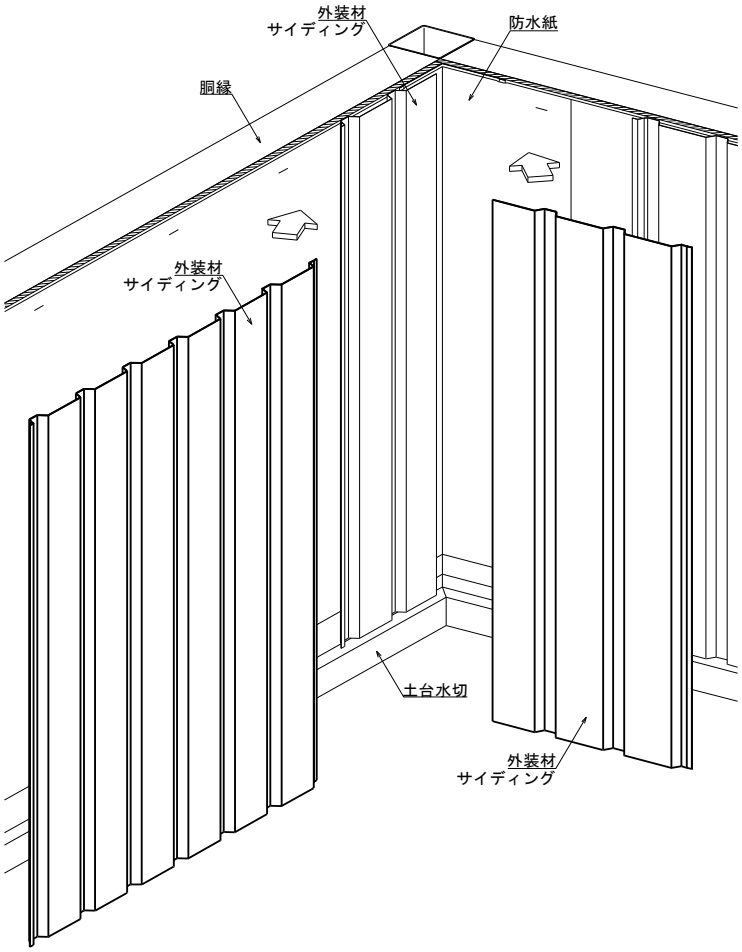


②入隅コーナー部のサーディングの取付け

● サイディングを割付位置に合わせビス留めし取付けて下さい。

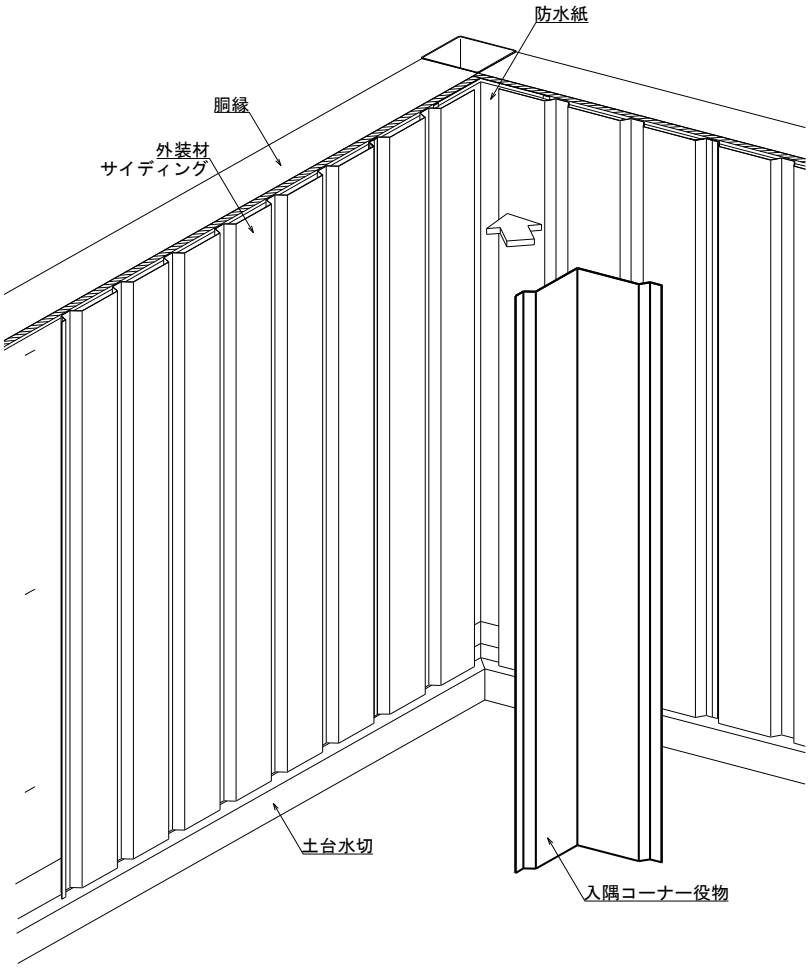
● 入隅コーナー役物と干渉するサイディングは納まりに合わせ切断して下さい。

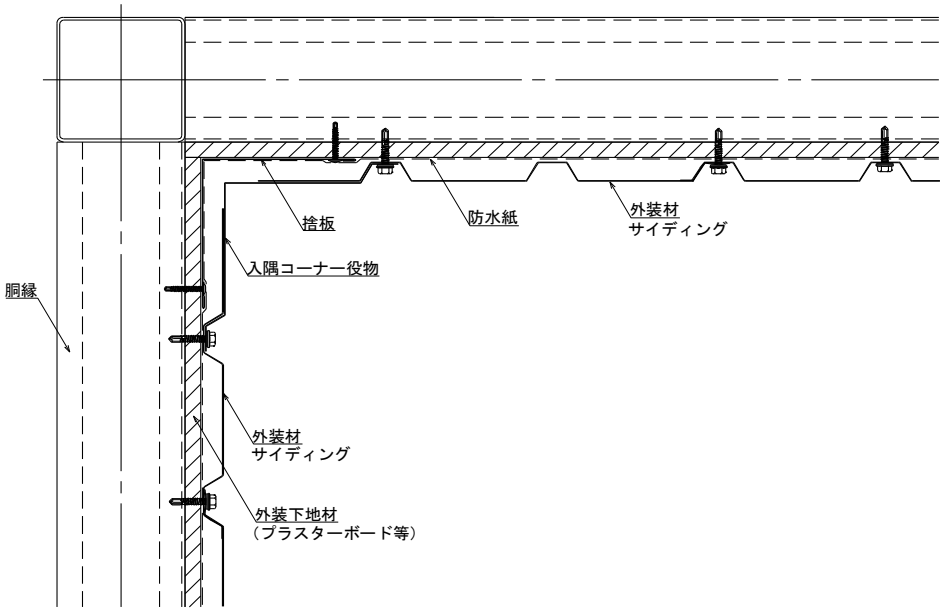
● サイディング本体および入隅コーナー役物に切り粉が付着した場合は確実に取り除いて下さい。



③入隅コーナー役物の取付け

● 入隅コーナー役物をコーナー部のサイディングに被せビス止めし取付けて下さい。





［４］外壁防火構造仕様について

角波Ｄ-Ⅰ型または角波Ｄ-Ⅱ型を使用した外壁防火構造は、建築基準法　仕様規定または個別大臣認定があります。

（１）建築基準法　仕様規定

（建築基準法　第2条八、施行令　第108条、平成12年5月24日　建設省告示　第1359号）
（※以下抜粋）

◇不燃下地、木造等下地　共通◇

屋内側：①厚さ 9.5㎜以上のせっこうボード
②厚さ 75㎜以上のグラスウール又はロックウール充填 ＋ 厚さ 4㎜以上の合板等

屋外側：①厚さ 12㎜以上のせっこうボード張 ＋ 金属板
②厚さ 25㎜以上の岩綿保温板張 ＋ 金属板

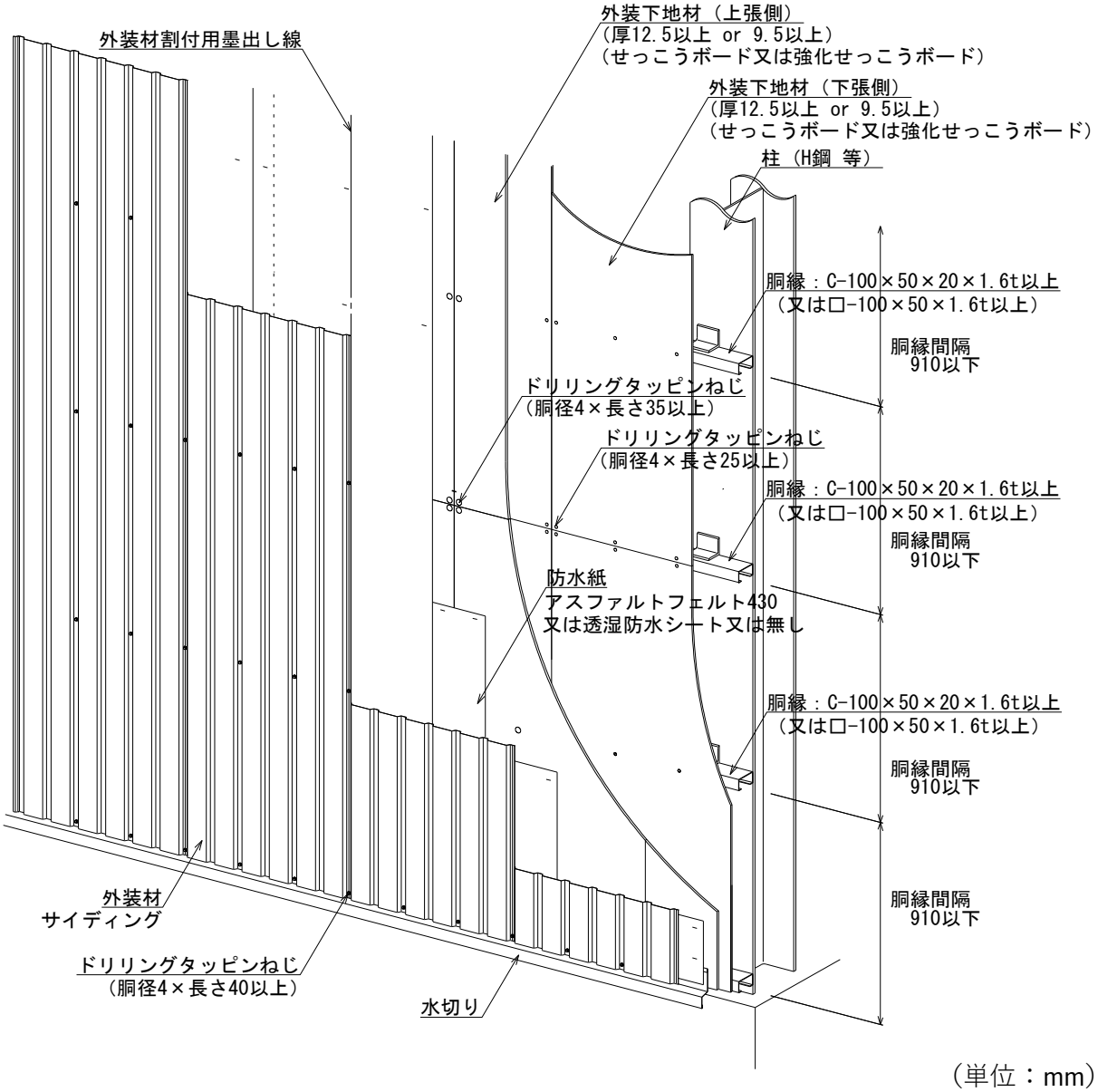
※ 詳細内容は条文をご確認ください。

個別大臣認定については、次ページ以降を参照

（2）個別大臣認定

※以下の条件を満たす構成にすることにより、防火構造に適用（＜認定番号＞PC030NE-0262）（非耐力壁）
＜条件＞①サイディング張り方向：縦張りのみ
②下地材（不燃下地）：胴縁　C-100×50×20×1.6以上　@910以下
□-100×50×1.6以上　@910以下
③屋外側：（下地材）せっこうボード又は強化せっこうボード　厚9.5以上＋厚12.5以上　2枚張り
（鋼　板）角波　厚0.27以上
④主な使用材料：NM-0188、NM-0876、NM-1863、NM-2127、NM-2937、NM-3461、NM-8317、
NM-8326、NM-8697、NM-9583、NM-9584、NM-9598、NM-9662、NM-9673、
他　JIS規格品（ステンレス鋼板はフェライト系に限る）

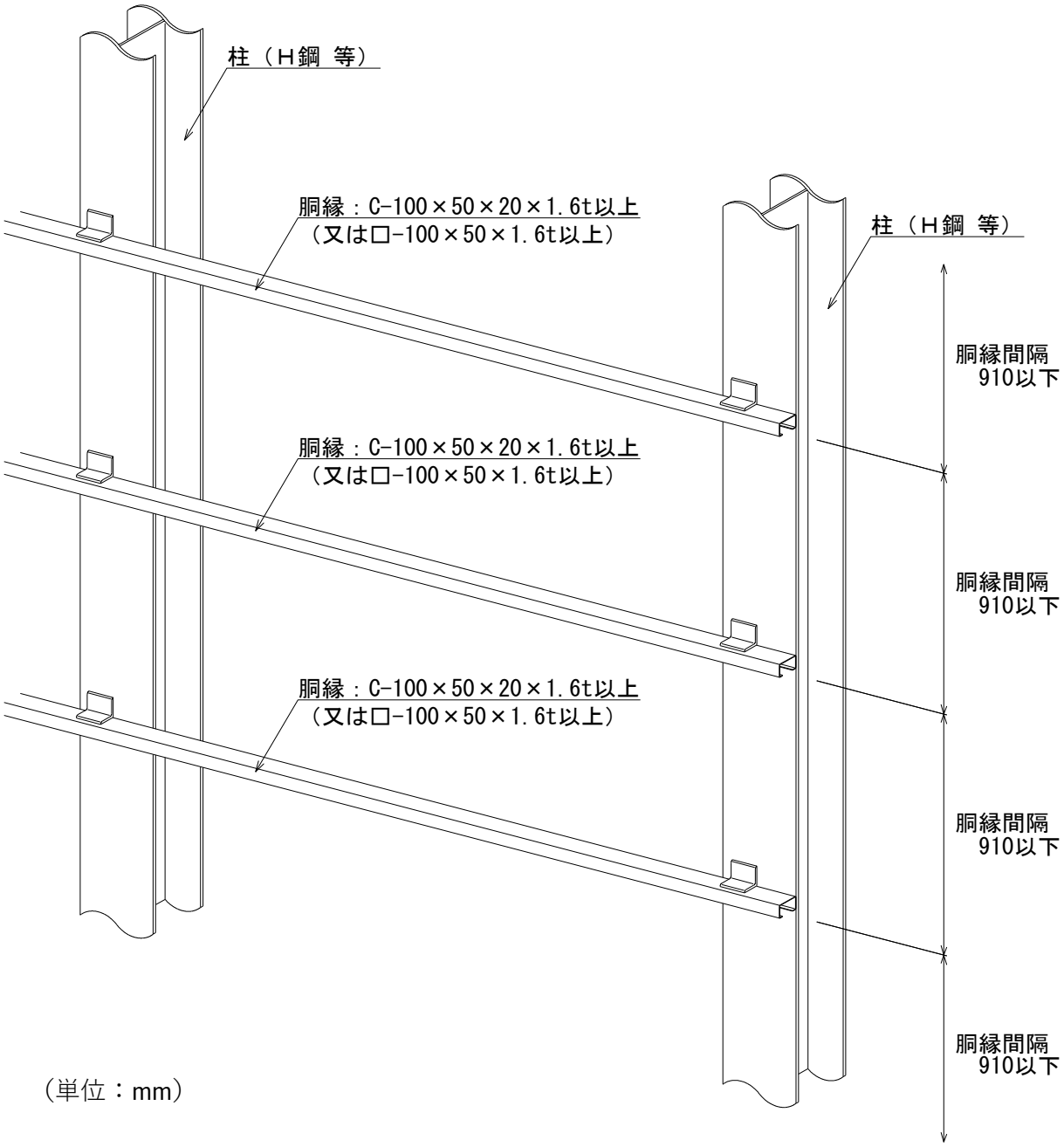
（1）サイディング納め構成図



（単位：mm）

- 土台及び石膏ボードに働き幅間隔で割付位置を墨出しして下さい。
- 外装材（サイディング）の取り付けは墨出し線に合わせてタッピンねじ（下限寸法：胴径4㎜×長さ40㎜以上）で下地（胴縁）に固定して下さい。
- 横重ね部は固定した１枚目の被さり部に２枚目の被せ部を被せ、タッピンねじ（胴径4㎜×長さ40㎜以上）で固定して下さい。３枚目以降、順次この作業を繰り返して下さい。
（タッピンねじ取付間隔　一般部／縦@910㎜以下、横@働き幅、横重ね部は全て固定）

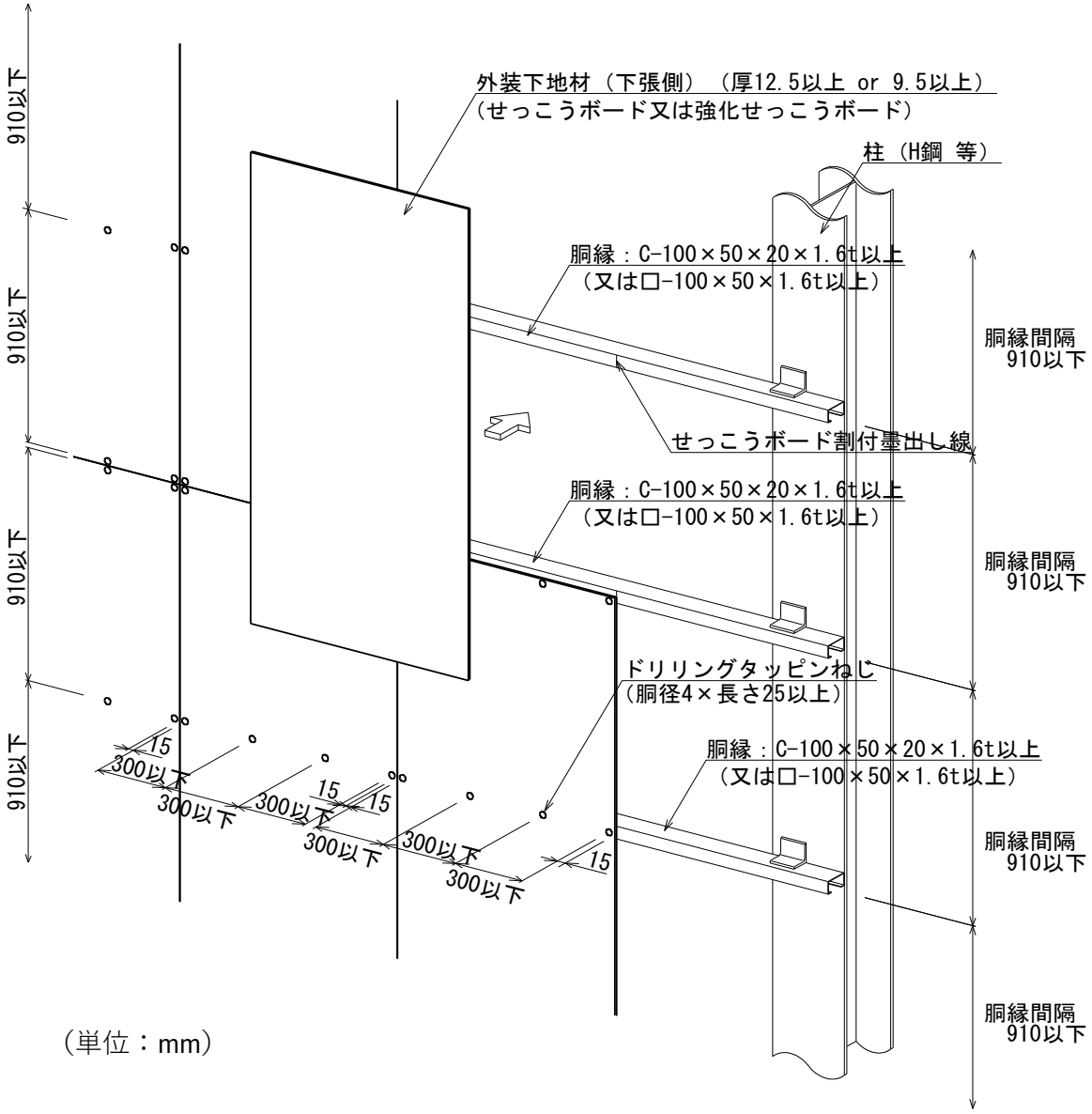
（２）下地（胴縁）間隔の確認



● 下地に以下の材料を使用し、胴縁間隔は910㎜以下となっていることを確認して下さい。

胴縁（㎜）　：C-100×50×20×1.6t以上 又は □-100×50×1.6t以上

（3）外装下地材（下張材）の取付け



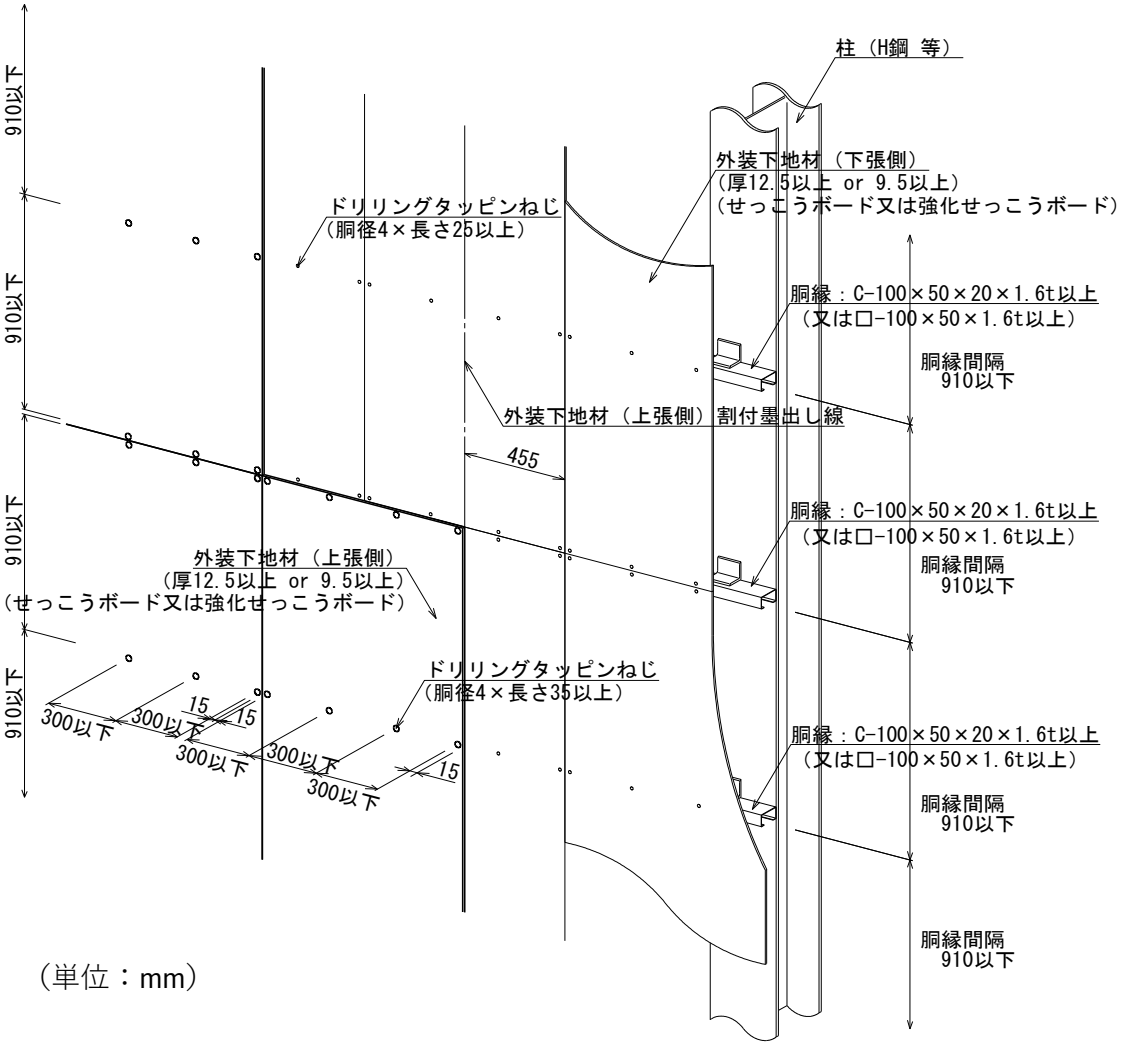
● 割付図に合わせ、せっこうボード（厚12.5㎜以上）又は強化せっこうボード（厚12.5㎜以上）の割付位置を墨出しして下さい。

● 墨出し線に合わせて、ドリリングタッピンねじ（胴径4㎜×25㎜以上）で固定して下さい。
（留付け間隔／縦@910㎜以下、横@300㎜以下、端15㎜）

取付けねじ（下張材取付用）

部材名	寸法・形状（㎜）
ドリリングタッピンねじ（①～②のいずれか） ①鉄（防錆処理品） ②鋼（防錆処理品） ③ステンレス	胴径4×長さ25以上

（４）外装下地材（上張材）の取付け



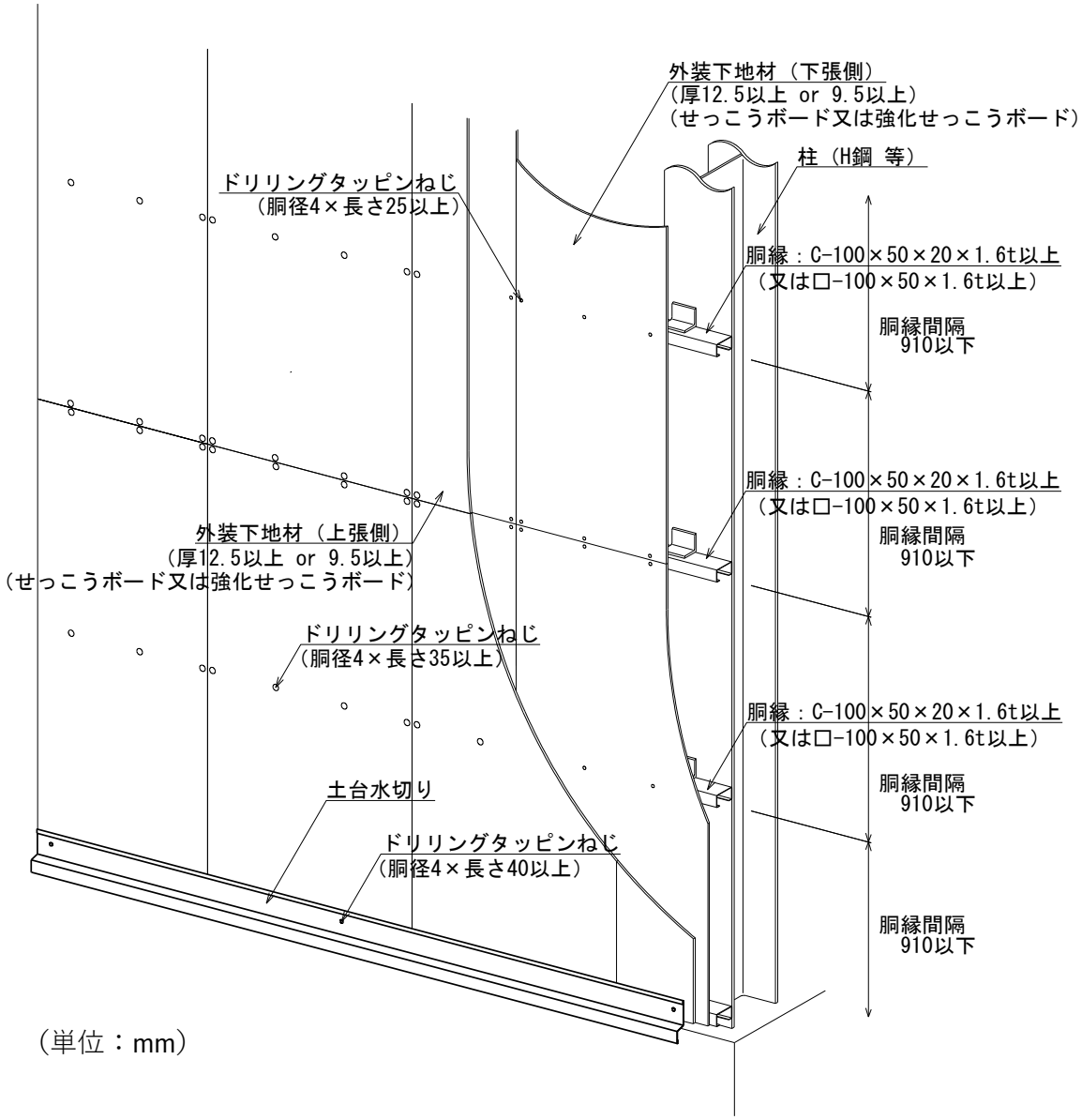
● 外壁下地材（下張側）の縦目地から455㎜ずらして、外装下地材（上張材）の割付位置を墨出しして下さい。
墨出し線に合わせて、ドリリングタッピンねじ（下限寸法：胴径4㎜×長さ35㎜以上）で固定して下さい。

● （留付け間隔／縦@910㎜以下、横@300㎜以下、端15㎜）

取付けねじ（上張材取付用）

部材名	寸法・形状（㎜）
ドリリングタッピンねじ（①～②のいずれか） ①鉄（防錆処理品） ②鋼（防錆処理品） ③ステンレス	胴径4×長さ35以上

（5）土台水切の取付け

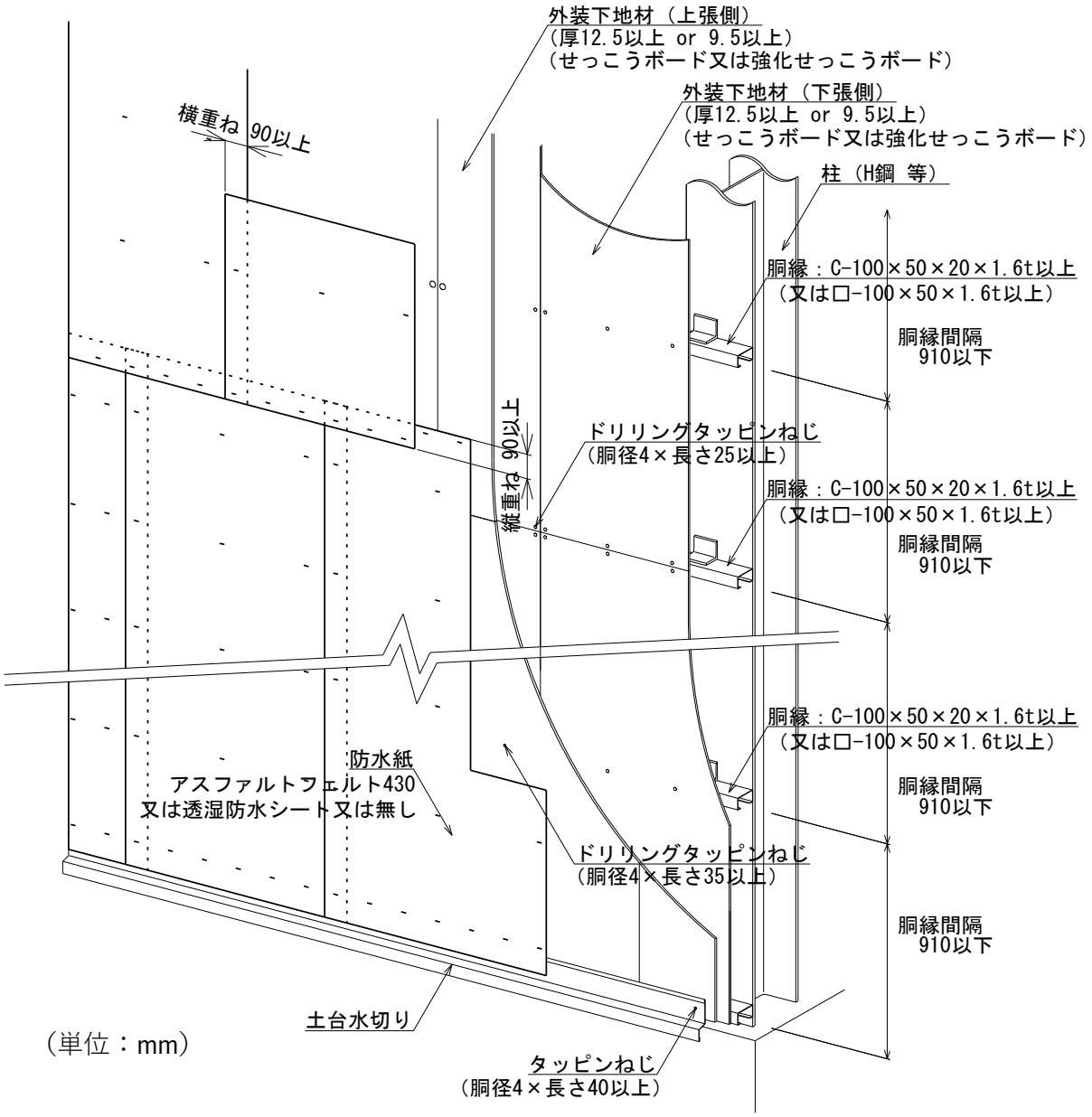


● 水切り材は両端及び中央付近をドリリングタッピンねじ（胴径4㎜×長さ40㎜以上）で下地（胴縁）に仮留めして下さい。

取付けねじ（役物取付用）

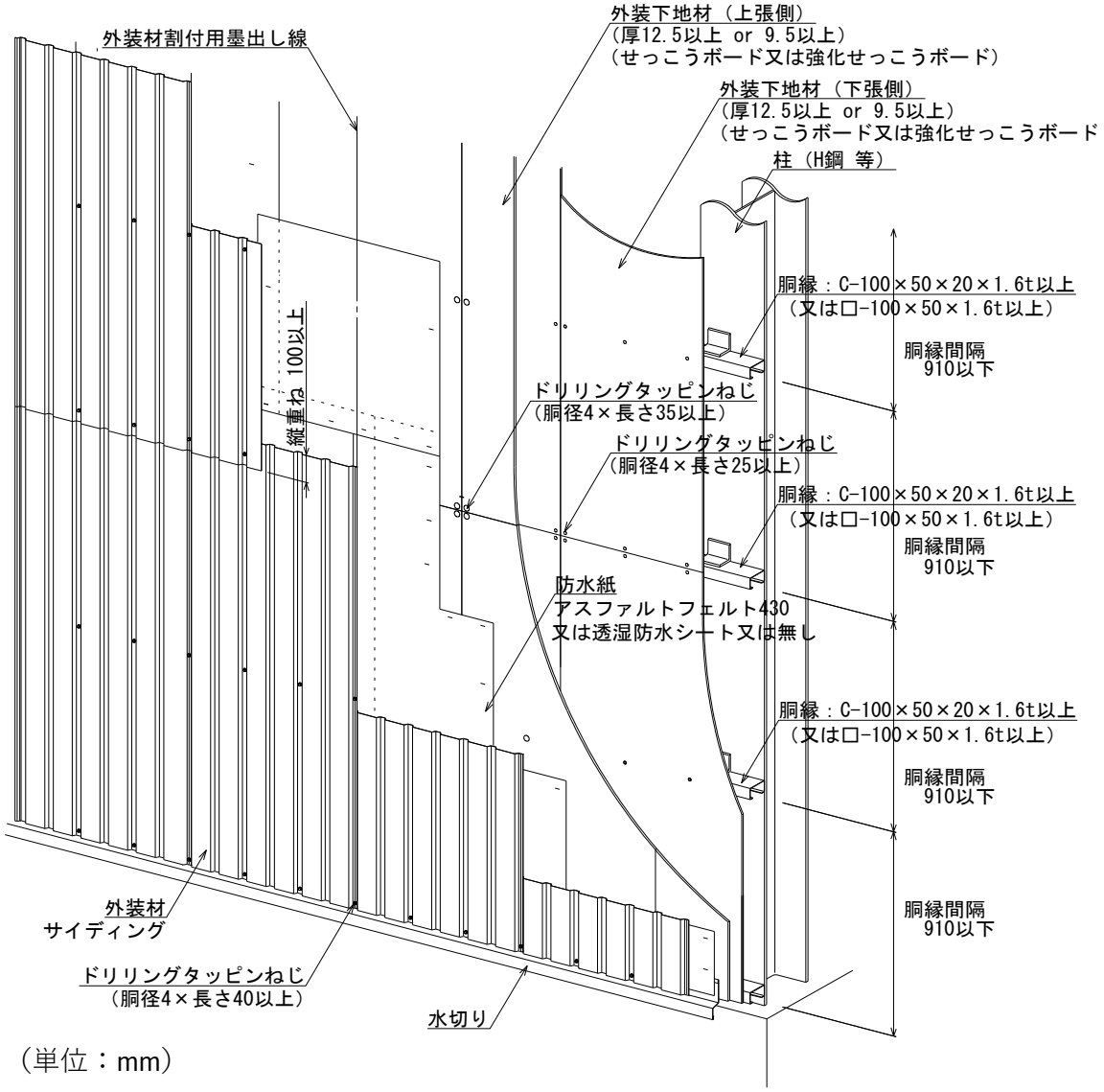
部材名	寸法・形状（㎜）
ドリリングタッピンねじ（①～②のいずれか） ①鉄（防錆処理品） ②鋼（防錆処理品） ③ステンレス	胴径4×長さ40以上

（6）防水紙の施工（アスファルトフェルト430品又は透湿防水シート）（省略可能）



● 縦重ね・横重ねは90㎜以上重ね、ステープルで固定して下さい。

（7）サイディング取付（縦重ね部）

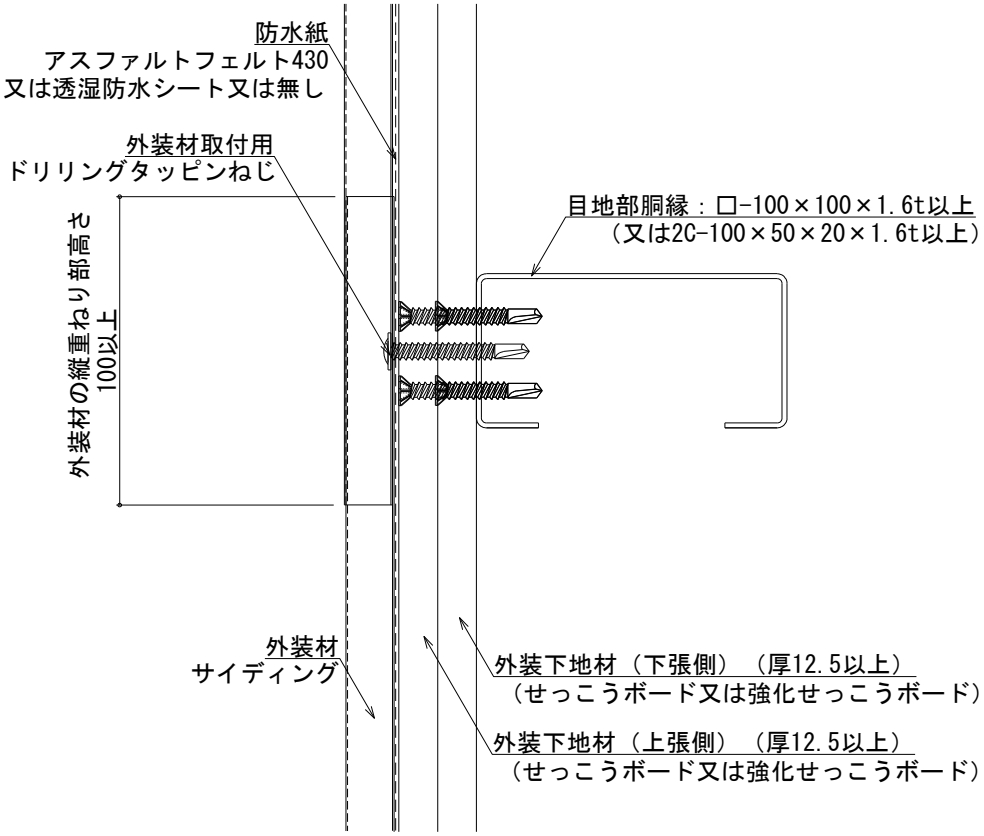


（単位：mm）

- 下部の外装材（サイディング）から縦重ね部の胴縁位置より高い位置まで取付けて下さい。
- 外装材（サイディング）の縦重ね部は100㎜以上重ねるように取付けて下さい。
- ドリリングタッピンねじ（胴径4㎜×長さ40㎜以上）で留め付ける位置は重ね代の中間とし、下地（胴縁）に固定して下さい。

取付けねじ（外装材（サイディング）取付用）

部材名	寸法・形状（㎜）
ドリリングタッピンねじ（①～②のいずれか） ①鉄（防錆処理品） ②鋼（防錆処理品） ③ステンレス	胴径4×長さ40以上



（単位：mm）

外装材縦重ね部について

■注意事項　日鉄鋼板株式会社カタログより抜粋

SGLカラー/GLカラーSERiOS Prime（セリオスプライム）

ご使用に際して

1.混合使用

●同じ色彩の塗装溶融2%マグネシウム添加55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板または、塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板でも製造メーカー、種類により特性値が異なり、年月を経ると外観に差異が生じることから同一建物での混合使用は絶対に避けて下さい。

2.扱い疵

●成形・運搬・施工時、表面に擦れ傷、カキ疵が付く場合がありますので、取扱いには十分注意して下さい。

3.塗装を剥がす場合

●ハンダ付け等で塗装を剥がす必要がある場合、剥離剤による方法がありますが、強い溶剤を含んでおり、剥離作業後の水洗が十分でないと、後に塗る塗膜を極端に傷めますので、水洗は十分に行って下さい。

4.加工時のクリアランス

●呼び厚さは原板厚さを言いますので、加工時のクリアランスはめっきの厚さ及び塗膜の厚さを考慮の上、適正なクリアランスを設定して下さい。

5.成形ロールの手入れ

●成形加工は、一般カラーと全く同様にできますが、良好な仕上がりを得るためには成形機の錆び落としなどの手入れをお願い致します。

6.施工後の注意

●施工時に発生した切粉等は「もらい錆び」の原因となりますので、除去して下さい。また、周辺から飛来する金属粉も「もらい錆び」の原因となりますので、金属粉が多く飛来する環境下でご使用される場合は定期的に清掃されることをお勧めします。

●動物等の排泄物、砂、泥、有機物（土、木の葉）、農薬、融雪剤、凍結防止剤などの堆積は、腐食の進行が非常に早くなりますので、その都度清掃してください。

7.補修塗料について

●塗料を剥した部分、著しい瑕疵部分等、補修塗装する場合は補修塗料を使用して下さい（補修塗料は最寄りの販売代理店へ請求して下さい）。補修塗料はそのまま使用できるように調合してありますので、十分に撹拌し、溶剤で希釈せず直接刷毛等で塗布して下さい。

8.SGLカラー/GLカラーSERiOS Prime（セリオスプライム）つや消しの場合

●SGLカラー/GLカラーセリオスプライムつや消しは、梨地肌の完全つや消し仕上げの製品外観（光沢が低く、表面粗度が大きい）にしているため、一般カラーと比較すると雪が滑りにくいと考えられます。このため、SGLカラー/GLカラーセリオスプライムつや消しを屋根にご使用いただく場合には、この点を十分ご配慮の上ご使用願います。

9.防腐・防蟻処理木材との長期接触による腐食の防止について

●防腐・防蟻剤（主に銅系の薬剤）を使用した木材や合板は、めっき鋼板や塗装鋼板の耐食性に影響をおよぼしますので、防腐・防蟻処理を含む木材との接触は避けて下さい。直接木材や合板に接触する部分（軒下、けらば、棟包み、水切り、降り棟、谷部、目地等）には絶縁用下葺（ルーフィング材、またはブチルテープ等）をご使用下さい。

10.メタリック色の使用について

●メタリック色は光線の正反射性が強い傾向にあります。そのため、僅かな材料の歪みや角度の違いによって見かけ上に明暗が生じ色ムラに見えます。

11.運搬および保管時の注意

●製品の保管は梱包状態で屋内保管とし、保管期間はできるだけ短くして下さい。やむを得ず野積みをする場合には製品下部に適当な間隔で枕木等を置いて地面と直接接触しないようにして下さい。もしコイルや積み重ねした平板が水濡れした場合は、できるだけ速やかに成形するなどして乾燥させて下さい。成形品を積み重ねたまま水濡れさせることも禁物です。

保証内容について

●セリオスプライムタイプ別の保証内容および機関

1）SGLカラー/GLカラーSERiOS Prime（セリオスプライム）全タイプ
：建築施工後最長25年間（目安：海岸から500m以遠）、材料の腐食による穴あきが無いこと。

2）SGLカラーSERiOS Prime（セリオスプライム）つや消し
GLカラーSERiOS Prime（セリオスプライム）つや消し（クリーン・クール/2タイプ）
：建築施工後最長15年間、塗膜の変退色が一定の基準以下であること。

3）SGLカラーSERiOS Prime（セリオスプライム）つや消しメタリック、GLカラーSERiOS Prime（セリオスプライム）つや消し（クリーン・クール・メタリッククール・メタリッククール・メタリッククリーン/4タイプ）
：建築施工後最長15年間、塗膜の膨れ剥がれの発生が一定の基準以下であること。（切断面、加工部から発生した以上は対象外）

4）SGLカラーSERiOS Prime（セリオスプライム）エナメル・エナメルメタリック、GLカラーSERiOS Prime（セリオスプライム）エナメル（クリーン・クール・メタリッククール・メタリッククリーン/4タイプ）
：建築施工後最長10年間、塗膜の膨れ剥がれの発生が一定の基準以下であること。（切断面、加工部から発生した以上は対象外）

（注）塗膜保証 2）,3）,4）についてSGLカラーSERiOS Prime（セリオスプライム）は海岸500m以遠、GLカラーSERiOS Prime（セリオスプライム）は海岸2km以遠となります。

※1海岸からの距離や周辺環境により保証内容が異なる場合があります。保証には別途当社で定める条件があり、保証内容のしょうさいについては当社営業窓口または特約店にお問合せ下さい。

●保証条件

1）適切な環境で使用されていること。（使用環境で保証年数は変わります。）
2）設計・施工・加工が適切に実施されていること。
3）お客様からの申請に基づき個別保証書を発行すること。

※1 保証には別途条件があります。保証の詳細については当社営業窓口または特約店にお問合せ下さい。

※2 個別保証書は大切に保管して下さい。苦情のお申し立ての際は個別保証書をご提示下さい。

●免責事項の例

1）切断面、端面、ボルト穴、くぎ穴、溶接部、現場加工部から派生する欠陥等。
2）軒下等雨がかりしないため、雨水による洗浄効果が期待できない部分の欠陥等。

※保証をお申し込みされる場合、他の免責事項については当社営業窓口または特約店にご確認下さい。

◇最新の情報については、当社営業窓口または特約店へお問合せください。

保証対象外について

●SERiOS Prime（セリオスプライム）については、従来材と比較した機能の向上を製品長さとしてうたったものであり、機能（遮熱、防汚、耐痕）を保証するものではありません。

不適切な使用例

以下は保証の対象外となる場合（免責事項）の例です。詳細はメーカー営業窓口または特約店へお問合せ下さい。

1.環境例

●塩害、亜硫酸ガス、アルカリなどの影響がある場合。
●鉄粉など付着した場合。
●湖沼、河川などの周辺で常に水しぶきがかかる場合。
●天変地変、災害など、その他不可抗力による損傷が発生した場合。

2.加工・施工例

●施工後に外力、加工屑などの飛来による損傷があった場合。
●加工時、施工時に損傷が発生した場合。
●防腐剤、防蟻剤を含む木材との長期接触があった場合。
●葺工法毎に許容される屋根勾配を無視した場合。

めっき鋼板・塗装鋼板のメンテナンスにていて

めっき鋼板・塗装鋼板はサビに強く、とても優れた素材ですが、完ぺきな素材ではありません。適切なメンテナンスをすることで、めっき鋼板・塗装鋼板の性能を最大限活かし、長持ちさせることができます。ここではメンテナンスのポイントをご紹介してまいります。

■水洗いの方法

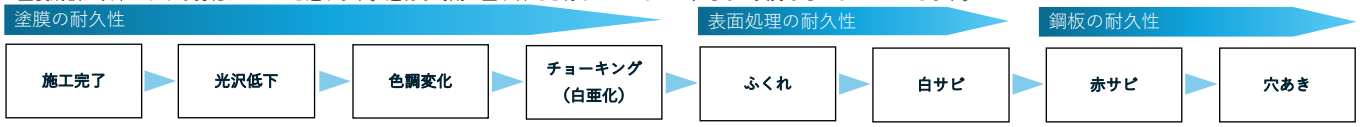
定期的に点検を行い、汚れが付着している場合は水洗いをして下さい。水洗いで落ちない汚れは、中性洗剤を1～2%に希釈して洗浄して下さい。
鋼板の表面を傷付けないよう、やわらかい箇所は汚れが溜まりやすくなりますので、念入りに行うようにして下さい。

■汚れが溜まりやすい箇所

軒下や庇の下などは雨水が当たりにくく、塩分や酸性の腐食原因物質が蓄積しやすくなります。そのため、定期的に水をかけて腐食原因物質を洗い流すことをお勧めします。

■塗り替えについて

塗装鋼板は以下のような劣化プロセスを辿ります。適切な時期に塗り替えを行うことによって、さらに長持ちさせることができます。



○塗装面がチョーキングの末期状態でふくれが散見される状態が塗り替えの適正時期です。
○塗装鋼板の種類や環境によって時期は異なりますが、おおおそ10～15年が目安です。
○塗り替え用塗料は各塗料メーカーより市販されておりますので、施工事業者とご相談ください。

月星商事株式会社

本社　〒104-8533　東京都中央区八丁堀４丁目４番２号

営業　TEL:03（3551）2121　FAX：03（3552）4079

http://www.tsukiboshi-shoji.co.jp

大阪支店　TEL:06（6462）0202　FAX:06（6462）4466
福島支店　TEL:0247（62）6211　FAX:0247（62）6220
北関東支店　TEL:0270（65）3311　FAX:0270（65）8747
小山支店　TEL:0285（49）2311　FAX:0285（49）2317
埼玉支店　TEL:048（728）9111　FAX:048（728）8585
土浦支店　TEL:029（831）8022　FAX:029（831）8010
千葉支店　TEL:043（259）0511　FAX:043（257）2005
神奈川支店　TEL:046（263）2020　FAX:046（263）2035
静岡支店　TEL:0548（22）5241　FAX:0548（22）5631
名古屋支店　TEL:0561（31）0061　FAX:0561（31）0063
兵庫支店　TEL:0790（22）5271　FAX:0790（22）5262
札幌営業所　TEL:011（221）6748　FAX:011（221）6734
北上営業所　TEL:0197（67）1221　FAX:0197（67）1223
いわき営業所　TEL:0246（58）5861　FAX:0246（58）5241
山梨営業所　TEL:055（284）1261　FAX:055（284）1263
高松営業所　TEL:087（806）3311　FAX:087（806）2236
福岡営業所　TEL:092（939）5700　FAX:092（939）5703

■お問い合わせは ――――

2505-01